

令和4年度業務実績に関する報告書
別添資料集

目次

別添資料 01-学修成果アンケートの追加質問項目	1
別添資料 02-UNIPA（学生情報システム）学修ポートフォリオ資料	2
別添資料 03-学修成果アンケート結果	4
別添資料 04-学科再編による数学・理科科目の変更点の効果検証	5
別添資料 05-TOEIC-IP1 年生向け、3 年生向け結果検証	8
別添資料 06-2024 年度学生募集要項大学院工学研究科（博士前期課程）	16
別添資料 07-学科再編による英語科目のカリキュラム変更の効果検証	19
別添資料 08-入試種別・課程年度別 1 年次平均 G P A 推移	21
別添資料 09-入学前教育アンケート結果	23
別添資料 10-分野横断型プログラム集	24
別添資料 11-修士の優秀賞、特別賞	38
別添資料 12-分野横断型シンポジウム特別講演会の様子	39
別添資料 13-海外語学留学支援 支援対象者	40
別添資料 14-前橋市提出書類及び承認書類	41
別添資料 15-令和 4 年度監事監査計画	45
別添資料 16-定期監査に係る中間報告書	47
別添資料 17-外部研究資金の獲得状況	49
別添資料 18-研究教育振興財団資料	52
別添資料 19-令和 5 年度当初予算概要資料	55
別添資料 20-財務指標の比較資料	60
別添資料 21-保健室学生相談対応状況	63
別添資料 22-Instagram 抜粋	64
別添資料 23-高校教員説明会出欠確認	65
別添資料 24-広報活動実施状況	66
別添資料 25-システム構成図 141 講義室、545 講義室	69

2022年度卒業（修了）生向け学修成果アンケートについて

追加したアンケート項目について

ディプロマ・ポリシーに基づく教育の質保証に関する PDCA サイクルの確立に向け、ディプロマ・ポリシーに含まれる能力要素を卒業時に身に付けられるようなカリキュラムを編成するため、卒業・修了生に対して、次に掲げる項目のアンケートを行い、結果を分析することでカリキュラムの見直しを推進する。（アンケート項目は学科再編等準備委員会教務部会が作成したもので、就職先企業への追跡調査でも活用している。）

1 設問内容

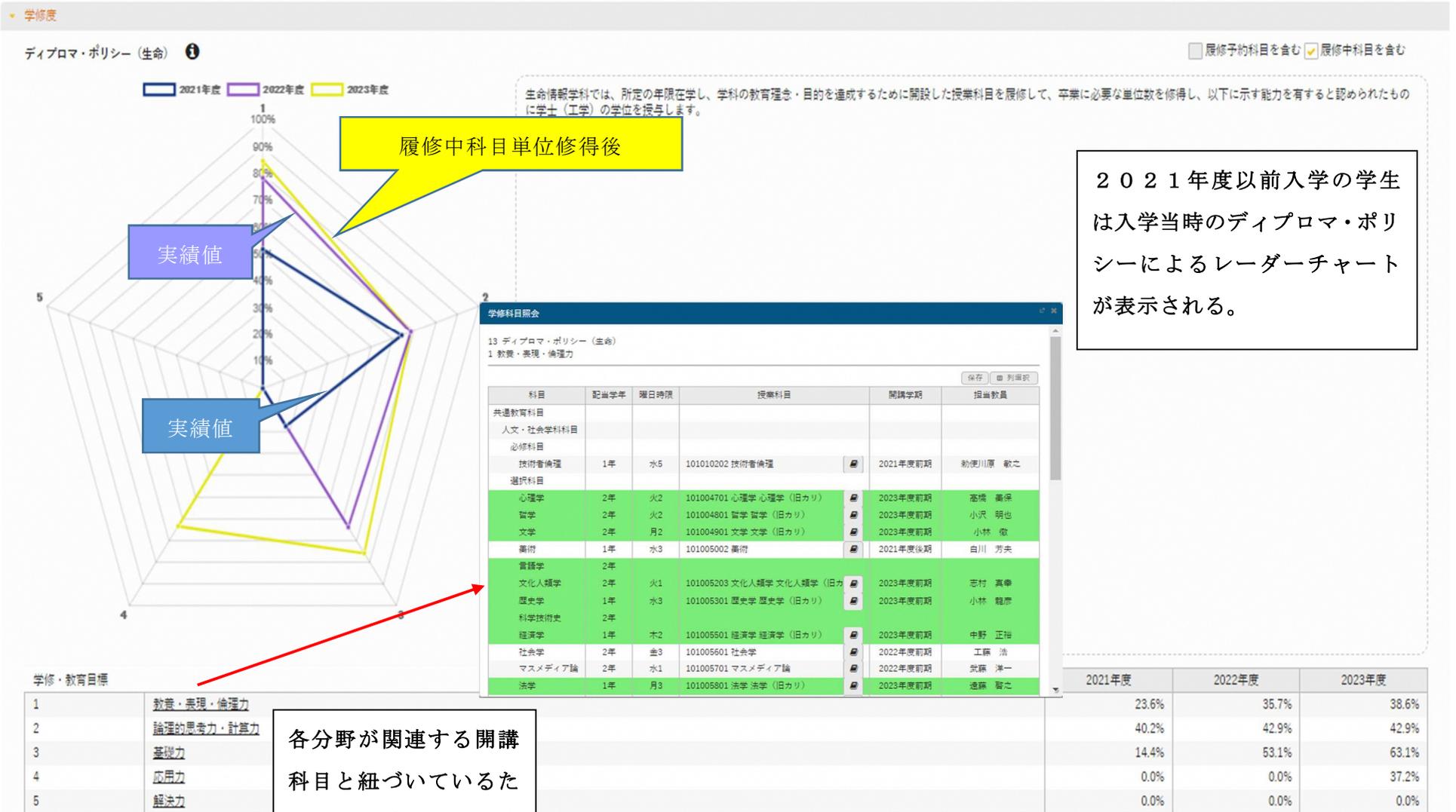
次の13の能力要素が身に付きましたか。

- ①自然と人との共生、持続可能な循環型社会の構築に寄与するための幅広い基礎的な学力、工学の知識と技能を修得している。
想像力…新たなもの、価値を生み出す力
- ②知識と技能に基づき、判断し、実行することができる。
実行力 … 目的を設定し、計画を踏まえて実行に移す力
- ③知識と技能に基づき、判断し、実行することができる。
自己活性力 … 困難な局面に立ち向かい、乗り越える力
- ④自ら課題を見いだすことができる。
課題発見力 … 現状を分析し目的や課題を明らかにする力
- ⑤自ら課題を見いだすことができる。
感受力(観察力) … 状況を先入観なく、ありのままに観察し、柔軟に受けとめる力
- ⑥課題の解決に主体的に取り組むことができる。
主体性 … 自主的に物事に取り組む姿勢
- ⑦課題の解決に主体的に取り組むことができる。
計画力 … 目標を達成するための道筋を描く力
- ⑧成果を発表する能力を備えている。
発信力 … 自分の考えをわかりやすく伝える力
- ⑨他者との協働に参画し得る社会性を有している。
働きかけ力 … 他者に働きかけ巻き込む力
- ⑩他者との協働に参画し得る社会性を有している。
傾聴力 … 実行された事柄を観察しつつ、他者の意見に対して謙虚に耳を傾ける力
- ⑪他者との協働に参画し得る社会性を有している。
支援力 … 他者を思いやり、力を貸し、助ける力
- ⑫専門技術者として果たすべき使命と役割を理解している。
責任力 … 自分に課せられた使命を理解し、全うする力
- ⑬倫理観や責任感を身に付けている。
倫理性 … 社会のルールや人との約束を守る姿勢

2 回答選択肢

「かなり身についた」、「ある程度身についた」、「少し身についた」、「わずかながら身についた」、「身につかなかった」

～2021年度以前入学生

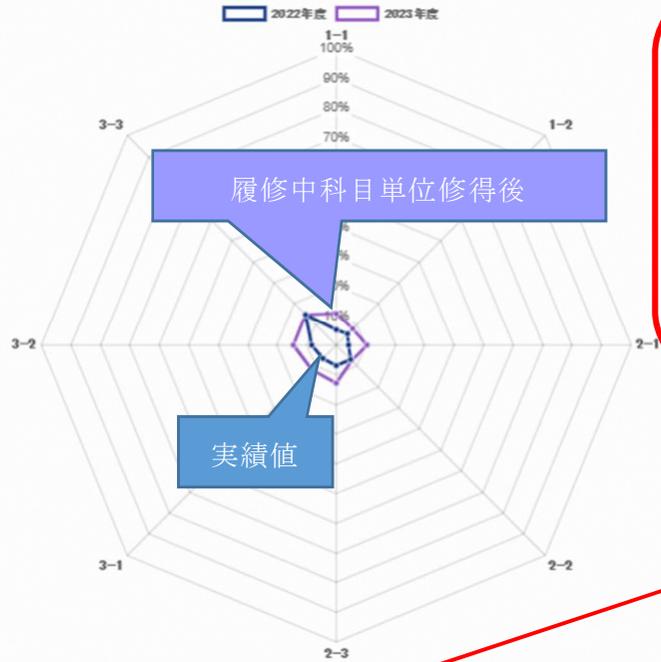


2022年度入学生～

学修度

大学ディプロマ・ポリシー（2022～）

履修目的科目を含む 履修中科目を含む



本学では、ディプロマ・ポリシーで定める学修成果を、8つの区分、13の能力要素に分類し、それら能力を伸ばすことを目標としてカリキュラムを構成しています。卒業までに各区分の能力を十分に身につけられるよう、履修計画を立て学修しましょう。

- ・創造力…新たなもの、価値を生み出す力
- ・実行力…目的を設定し、計画を踏まえて実行に移す力
- ・自己活性化…困難な局面に立ち向かい、乗り越える力
- ・課題発見力…現状を分析し目的や課題を明らかにする力
- ・感受力（観察力）…状況を先入観なく、ありのままに観察し、柔軟に受けとめる力
- ・主体性…自主的に物事に取り組む姿勢
- ・計画力…目標を達成するための道筋を描く力
- ・発信力…自分の考えをわかりやすく伝える力
- ・働きかけ力…他者に働きかけ巻き込む力
- ・傾聴力…実行された事柄を観察しつつ、他者の意見に対して謙虚に耳を傾ける力
- ・支援力…他者を思いやり、力を貸し、助ける力
- ・責任力…自分に課せられた使命を確解し、全うする力
- ・倫理性…社会のルールや人との約束を守る姿勢

2022年度以降入学の学生は
 現行ディプロマ・ポリシーによる
 レーダーチャートが表示される。

学修・教育目標

1-1	創造力
1-2	実行力・自己活性化
2-1	課題発見力・感受力
2-2	主体性・計画力
2-3	発信力
3-1	働きかけ力・傾聴力
3-2	責任力
3-3	倫理性

各分野が関連する開講科目と紐づいているため、目標値の要素的分析ができる。

学修科目照会

科目	配当学年	曜日時間	授業科目	開講学期	担当教員
教養基礎科目					
人文・社会科学科目					
選択科目					
地理学	1年	月1	1CB001502 地理学	2023年度前期	早田 勉
美術	1年	月3	1CB000401 美術	2022年度前期	白川 芳夫
外国語科目					
外国語選択					
英語C アドバンスト	3年				
自然科学科目					
必修科目					
微分積分学I	1年	水1	1CB002601 微分積分学I	2023年度前期	伊藤 公智
		水1	1CB002602 微分積分学I	2023年度前期	新岡 裕昭
		水1	1CB002603 微分積分学I	2023年度前期	矢口 義晴
		水2	1CB002604 微分積分学I	2023年度前期	伊藤 公智
		水2	1CB002605 微分積分学I	2023年度前期	新岡 裕昭
		水2	1CB002606 微分積分学I	2023年度前期	矢口 義晴
微分積分学II					
線形代数I	1年	金2	1CB002902 線形代数I	2023年度前期	伊藤 公智
		金2	1CB002903 線形代数I	2023年度前期	新岡 裕昭
		金3	1CB002904 線形代数I	2023年度前期	矢口 義晴

	2022年度	2023年度
	5.3%	10.8%
	5.6%	7.9%
	4.2%	10.3%
	6.7%	7.6%
	6.8%	12.9%
	6.2%	11.7%
	8.4%	14.5%
	14.5%	14.5%

令和4年度学修成果アンケート 回答率及び中期計画数値目標の達成状況

回答期間：令和5年2月2日（木）から3月6日（月）

1 回答率

学科・専攻	令和4年度			令和3年度		
	卒業生数	回答者数	回答率	卒業生数	回答者数	回答率
工学部						
社会環境工学科	49	34	69.4%	51	31	60.8%
建築学科	51	27	52.9%	48	35	72.9%
生命情報学科	45	24	53.3%	47	28	59.6%
システム生体工学科	50	41	82.0%	37	40	108.1%
生物工学科	46	45	97.8%	44	42	95.5%
総合デザイン工学科	42	36	85.7%	37	34	91.9%
小計	283	207	73.1%	264	210	79.5%
工学研究科						
建設工学専攻	9	6	66.7%	7	5	71.4%
建築学専攻	12	5	41.7%	9	6	66.7%
生命情報学専攻	9	1	11.1%	3	2	66.7%
システム生体工学専攻	21	17	81.0%	7	7	100.0%
生物工学専攻	8	7	87.5%	8	9	112.5%
環境・生命工学専攻	2	3	150.0%	2	2	100.0%
小計	61	39	63.9%	36	31	86.1%
合計	344	246	71.5%	300	241	80.3%

※環境・生命工学専攻の回答率が150%になっているのは、卒業予定者が1人回答したものの、卒業できなかったため。

2 中期計画数値目標の達成状況（学部生のみ）

※「3：ある程度身についた」以上と回答した学生の比率

(1) 専門分野の基礎的学力

選択肢	令和4年度			令和3年度		
	回答者数	比率	達成状況	回答者数	比率	達成状況
身についた	71	28.9%	89.4%	65	27.0%	88.8%
ある程度身についた	149	60.6%		149	61.8%	
あまり身につかなかった	24	9.8%		25	10.4%	
身につかなかった	2	0.8%		2	0.8%	
合計	246	100%		241	100%	

(2) 専門分野の研究能力

選択肢	令和4年度			令和3年度		
	回答者数	比率	達成状況	回答者数	比率	達成状況
身についた	66	26.8%	90.7%	67	27.8%	88.8%
ある程度身についた	157	63.8%		147	61.0%	
あまり身につかなかった	22	8.9%		21	8.7%	
身につかなかった	1	0.4%		6	2.5%	
合計	246	100%		241	100%	

(3) 外国語に関する知識・理解・運用能力

選択肢	令和4年度			令和3年度		
	回答者数	比率	達成状況	回答者数	比率	達成状況
身についた	18	7.3%	34.6%	17	7.1%	37.3%
ある程度身についた	67	27.2%		73	30.3%	
あまり身につかなかった	122	49.6%		110	45.6%	
身につかなかった	39	15.9%		41	17.0%	
合計	246	100%		241	100%	

学科再編による数学・理科科目の変更点の検証

数学科目

伊藤、新國、矢口

【変更内容】

1. 「微分積分学Ⅰ」を週2回から週1回に変更、「解析学基礎」の新設
2. 「微分積分学Ⅱ」の必修化
3. 1年次必修科目の少人数化（1クラスの人数を1年生約50名とする）

【検証の内容】

令和4年度（2022年度）からの学科再編による上記の変更内容について、その有効性と問題点を担当教員間で検証した。その内容は次の通り。

1. 従来「微分積分学Ⅰ」で教えていた内容の一部を「解析学基礎」に回しているが、「解析学基礎」が2年次科目のため、1については来年度の検証課題とする。
2. 「微分積分学Ⅱ」の講義内容である2変数関数の微積分の必修化については、工学部の教養基礎科目として自然な形となったと考えられる。その一方で、数学をあまり必要としない分野を希望する学生にとっては科目の学習意欲の減退につながり、単位を修得できず再履修や留年につながることも考えられる。2の効果や問題点については、今後2,3年の状況を踏まえて検証していきたい。
3. 従来、1年次必修科目では1クラス約100名（1年生約80名+再履修者約20名）×3クラス+総合デザイン1クラスであったものが、1クラス約60名（1年生約50名+再履修者約10名）×6クラスに変更された。学生に教育できる内容は、100名と60名では違いはないため、少人数化に関しては、担当講義数の増加に見合うほどの有効性は見出せなかった。また、同じ学群の中で3クラスに分かれ、それらを別々の教員が担当するため、講義をどの教員が担当するかによる不公平感を学生が感じているのではないかと危惧している。授業内容の公平性については3人の教員間で日常的に調整を行い努力したが、完全に同一の教育を提供することは非常に困難であった。従って、3については、少人数制と公平性のどちらに重きを置くかに応じて、様々な変更方法を模索する必要があるといえる。

理科科目

浅川、中島

【変更点】

理科 3 科目（物理学 I～IV・化学 I,II・生物学 I,II）の変更内容は

1. 「物理学 I」「化学 I」「生物学 I」のうち 2 科目を必修とする（選択必修制）
2. 少人数教育のため、同一科目を複数開講する（複数クラス開講制）

これら 2 点について学生アンケートを実施し、変更点の有効性および問題点について検証を行った（資料添付）

【選択必修制について】

選択必修制は、必修制に比べ、学びの自由度は高くなる。一方で上記理科 3 科目はプログラム配属の成績の対象科目であり、科目の選択が進路に影響を及ぼす可能性がある。このことを踏まえて、選択必修制について満足度を調査した。

アンケート結果は選択必修制に「満足」と答えた学生が 68 名中 63 名となった。学びの自由度が高いことが主な理由となっている。従って、学生にとっては良い変更であったといえそうである。一方で「不満足」の理由として、科目の選択によって成績が公平でなくなるという指摘があった。また、プログラムが決まっていない段階で後に必要となる科目を選択することが難しいと感じる学生も居ることが分かる。

【選択必修制とプログラム選択】

情報・生命工学群において、生物応用プログラムを希望する学生が少ないという問題がある。これは理科 3 科目とは無関係ではない。希望と異なり生物応用プログラムに配属された学生が、3 科目のうち最も学ぶべき「生物学 I」を履修していないケースが多いことが予想される(下表)。これに対し、1 つの方策として、情報・生命工学群においては「生物学 I」を必修とすることは可能ではないか。

選択必修 3 科目の 1 年生履修者数

	物理学 I	化学 I	生物学 I
建築・都市・環境	145	114	44
情報・生命	134	121	78

【複数クラス開講制について】

同一科目の開講数は 75 名程度を念頭にして設定されているが、今年度の実際のクラス分けに関しては以下の複数の方法を採用した。

a：完全に自由選択（物理学 II など）

b：学群で選べるクラスは指定されるが、その中では自由選択（物理学Ⅰ、化学Ⅰなど）

c：受講クラスが指定されている（生物学Ⅰなど）

学生にとってどの方法が最適かを知るために、「クラスの人数が多くても自由にクラスを選びたい」のか、あるいは「クラスの人数が適正になるようクラス分けをして欲しい」のかを調査した。結果は68名中63名が前者を選択した。人数が多いかどうかは学生には重要ではなく、時間割の選択肢が増えるメリットの方が大きいという結果であった。特に「一緒に学ぶ友達と同じクラスで受講できる」という利点は非常に重要な指摘ではないか。一方で、少数の後者の選択肢を選んだ学生は、その理由として、人数が増えると板書が見にくいなど授業を受ける環境が悪化する点を挙げている。これは工夫次第で解消できる類の問題であろう。

【少人数制と公平性】

上記のような学生の意向が最も反映されたのが「物理学Ⅱ」である。4クラスのうち、1クラスに建築・都市・環境学群の学生が集中し、別の1クラスに情報・生命学群の学生が集中し、残り2クラスは受講者が少なかった（下表）。少人数制のために、仮に水曜2限の112名を2クラスに強制的に分けていたとすると、クラスによって履修できる科目が異なることで、成績の観点から不公平であるという意見が出たであろう。即ち、少人数制と公平性はトレードオフの関係にあると言える。授業を行う側にとっても、公平性の観点からは人数に無関係に授業を行う必要があるが、授業内容を完全に公平にするのは容易ではない。今回のような人数分布の場合、クラス数を2つに減らす方が、より公平性が保たれることになる。

「物理学Ⅱ」1年生履修者数

	水曜2限	木曜2限	木曜3限	金曜5限
建築・都市・環境	0	2	133	1
情報・生命	112	1	5	12

まとめ

今回の検証で数学・理科に共通して挙げたのは、少人数制と公平性の両立の難しさである。どちらにより重きを置くのかに応じて、適切な授業形態も変わってくる。次年度以降も継続して検証を行い、学生と教員の双方にとってより良い授業形態について模索していきたい。

TOEIC Listening & Reading IPテスト結果
令和4年4月6日（水）実施

資料 1

受験者【対象：学部1年生】

	受験者数	学生数	受験率 (%)
建築・都市・環境工学群	148	151	98.0
情報・生命工学群	155	157	98.7
計	303	308	98.4

合計得点（満点：990点）

	最高	最低	平均
建築・都市・環境工学群	900	185	362.3
情報・生命工学群	725	145	338.9
全体	900	145	350.3

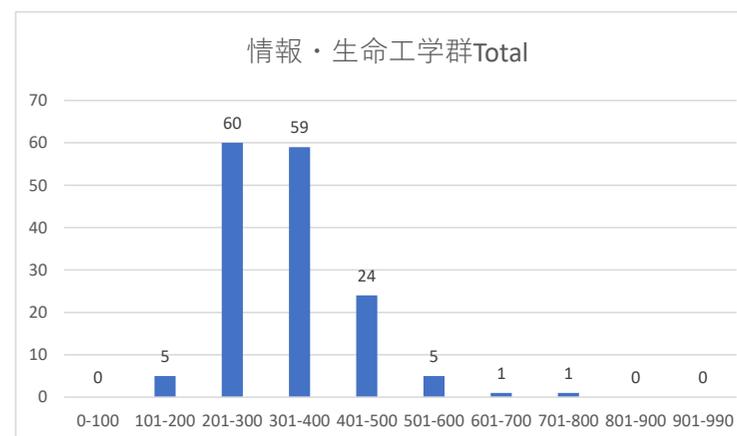
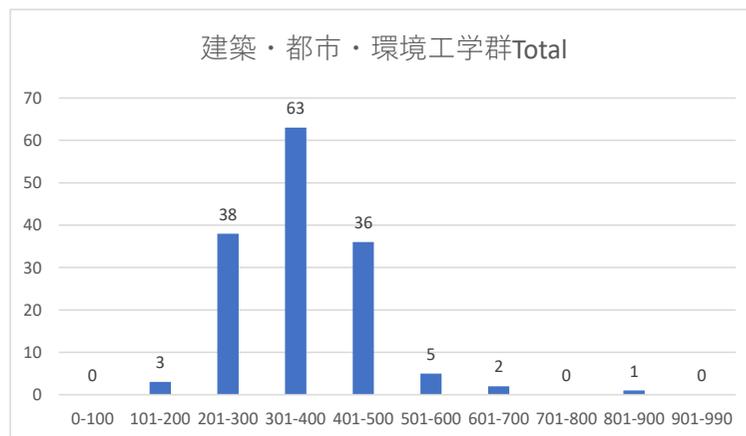
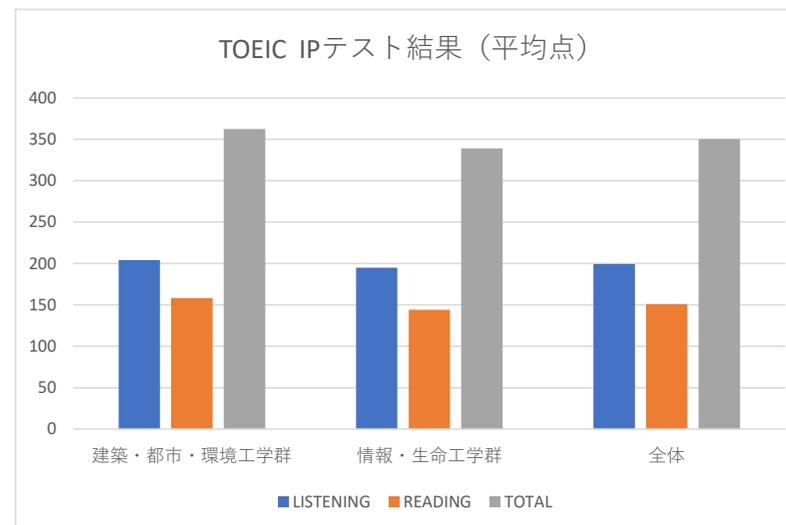
【内訳】

Listening得点（満点：495点）

	最高	最低	平均
建築・都市・環境工学群	495	90	204.1
情報・生命工学群	440	80	194.8
全体	495	80	199.4

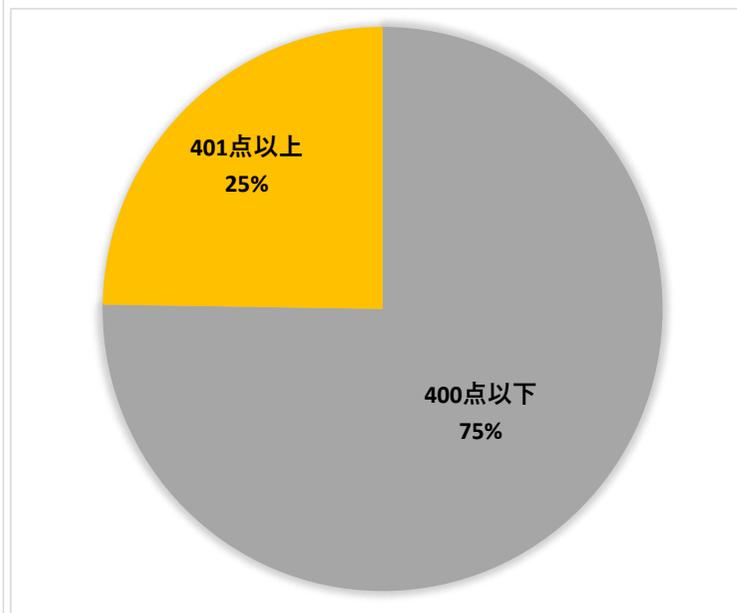
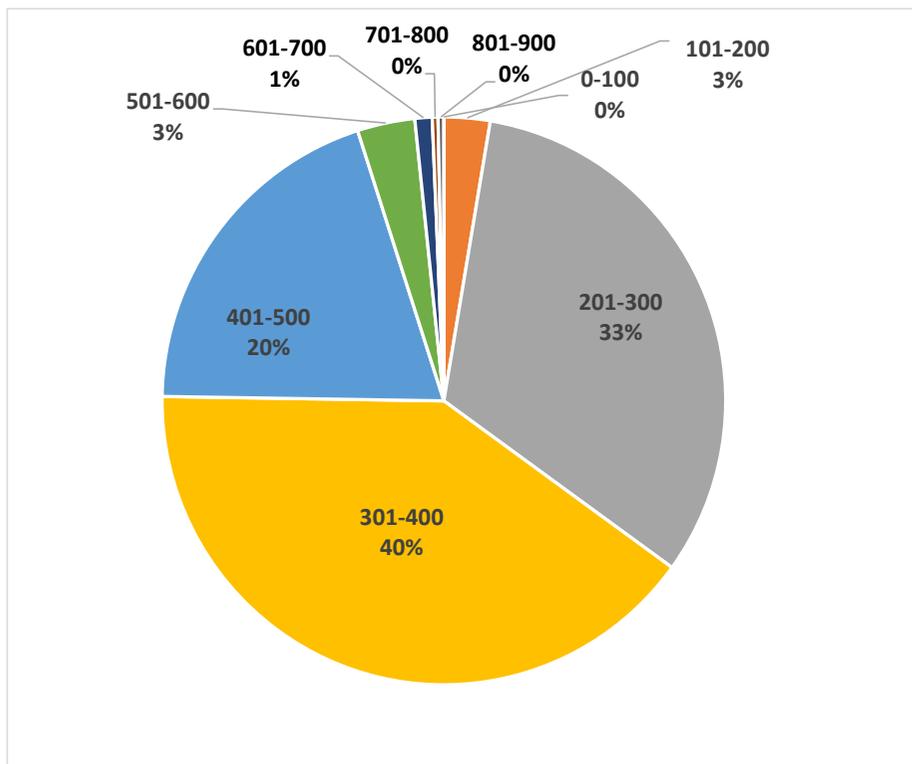
Reading得点（満点：495点）

	最高	最低	平均
建築・都市・環境工学群	405	65	158.2
情報・生命工学群	305	60	144.1
全体	405	60	151.0



【令和4年度 学部1年生TOEIC-IPテスト結果の得点内訳】

0-100	0	0.0%	400点以下	228
101-200	8	2.6%	401点以上	75
201-300	98	32.3%		
301-400	122	40.3%		
401-500	60	19.8%		
501-600	10	3.3%		
601-700	3	1.0%		
701-800	1	0.3%		
801-900	1	0.3%		
901-990	0	0.0%		
Total	303	100%		



※端数整理のため、左記グラフの割合合計と差異があります。

【参考】前年度

受験者【対象：学部1年生】

	受験者数	学生数	受験率 (%)
社会環境工学科	60	61	98.4
建築学科	54	54	100.0
生命情報学科	44	45	97.8
システム生体工学科	51	51	100.0
生物工学科	47	47	100.0
総合デザイン工学科	32	32	100.0
計	288	290	99.3

合計得点（満点：990点）

	最高	最低	平均
社会環境工学科	580	190	343.0
建築学科	610	220	407.4
生命情報学科	470	220	345.1
システム生体工学科	615	220	357.8
生物工学科	500	185	343.4
総合デザイン工学科	505	175	316.1
全体	615	175	355.1

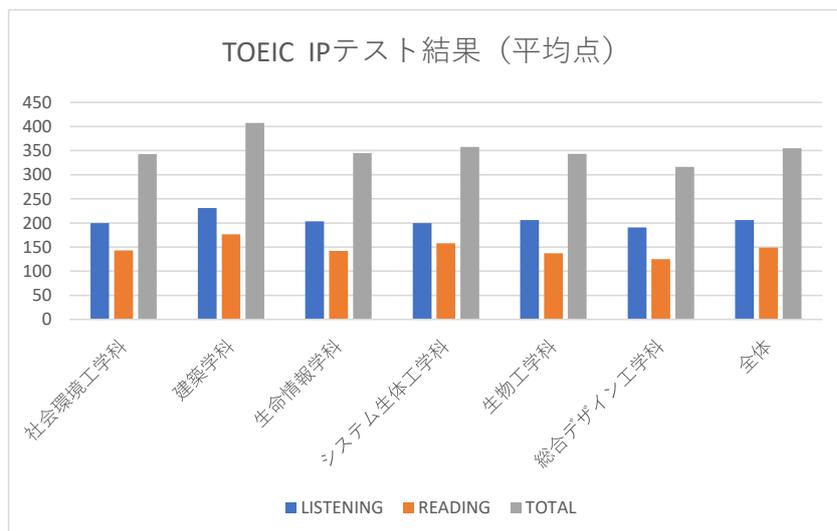
【内訳】

Listening得点（満点：495点）

	最高	最低	平均
社会環境工学科	310	100	199.9
建築学科	375	95	231.1
生命情報学科	315	135	203.3
システム生体工学科	360	110	199.9
生物工学科	315	120	206.0
総合デザイン工学科	275	100	190.9
全体	375	95	206.3

Reading得点（満点：495点）

	最高	最低	平均
社会環境工学科	270	80	143.1
建築学科	285	85	176.3
生命情報学科	235	80	141.8
システム生体工学科	270	80	157.9
生物工学科	230	75	137.4
総合デザイン工学科	230	65	125.2
全体	285	65	148.8



受験者【対象：学部1年生】

	受験者数	学生数	受験率 (%)
社会環境工学科	46	50	92.0
建築学科	43	56	76.8
生命情報学科	45	50	90.0
システム生体工学科	43	44	97.7
生物工学科	43	48	89.6
総合デザイン工学科	36	45	80.0
計	256	293	87.4

合計得点（満点：990点）

	最高	最低	平均
社会環境工学科	440	175	310.2
建築学科	685	190	351.4
生命情報学科	835	155	364.3
システム生体工学科	570	195	328.6
生物工学科	485	220	352.3
総合デザイン工学科	390	175	284.7
全体	835	155	333.2

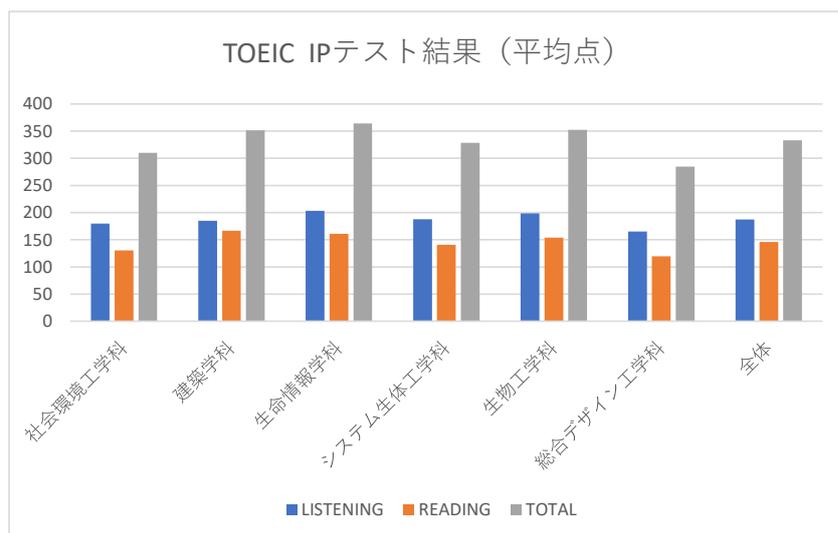
【内訳】

Listening得点（満点：495点）

	最高	最低	平均
社会環境工学科	255	90	179.7
建築学科	370	100	184.8
生命情報学科	440	80	203.4
システム生体工学科	320	105	187.8
生物工学科	280	110	198.4
総合デザイン工学科	230	85	165.1
全体	440	80	187.2

Reading得点（満点：495点）

	最高	最低	平均
社会環境工学科	215	60	130.5
建築学科	315	90	166.6
生命情報学科	395	70	160.9
システム生体工学科	250	80	140.8
生物工学科	285	95	154.0
総合デザイン工学科	170	45	119.6
全体	395	45	146.1



受験者【対象：学部3年生】

	受験者数	学生数	受験率 (%)
社会環境工学科	15	50	30.0
建築学科	36	54	66.7
生命情報学科	32	50	64.0
システム生体工学科	30	44	68.2
生物工学科	43	48	89.6
総合デザイン工学科	27	41	65.9
計	183	287	63.8

合計得点（満点：990点）

	最高	最低	平均
社会環境工学科	470	190	353.3
建築学科	680	215	384.4
生命情報学科	875	240	403.8
システム生体工学科	490	215	335.2
生物工学科	665	240	397.8
総合デザイン工学科	580	185	340.9
全体	875	185	373.9

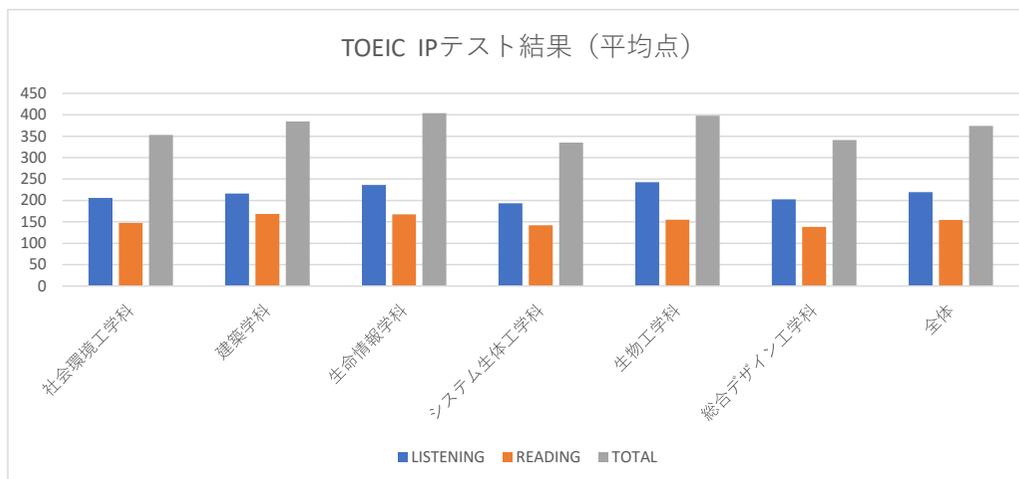
【内訳】

Listening得点（満点：495点）

	最高	最低	平均
社会環境工学科	310	95	206.0
建築学科	335	130	216.0
生命情報学科	450	140	236.4
システム生体工学科	280	125	193.3
生物工学科	360	150	242.6
総合デザイン工学科	340	100	202.8
全体	450	95	219.3

Reading得点（満点：495点）

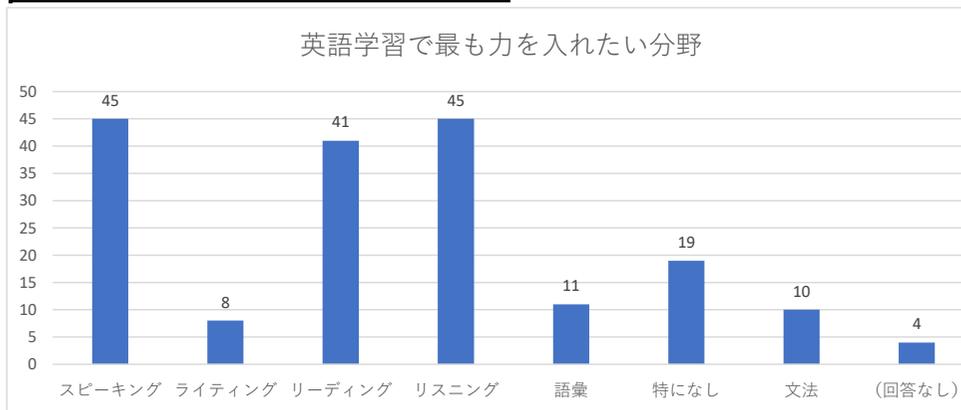
	最高	最低	平均
社会環境工学科	210	90	147.3
建築学科	345	85	168.5
生命情報学科	425	95	167.3
システム生体工学科	230	80	141.8
生物工学科	305	75	155.2
総合デザイン工学科	245	80	138.1
全体	425	75	154.6



「属性」アンケート集計結果

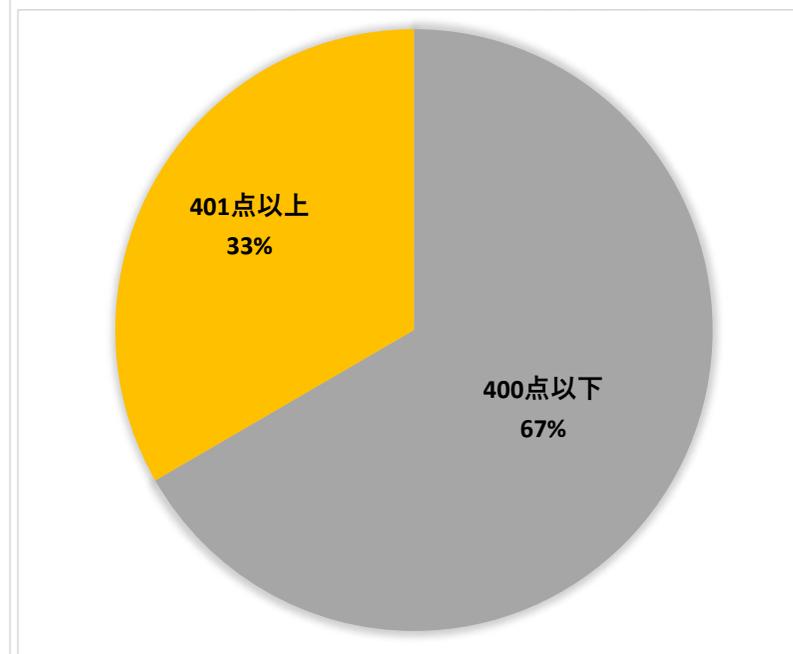
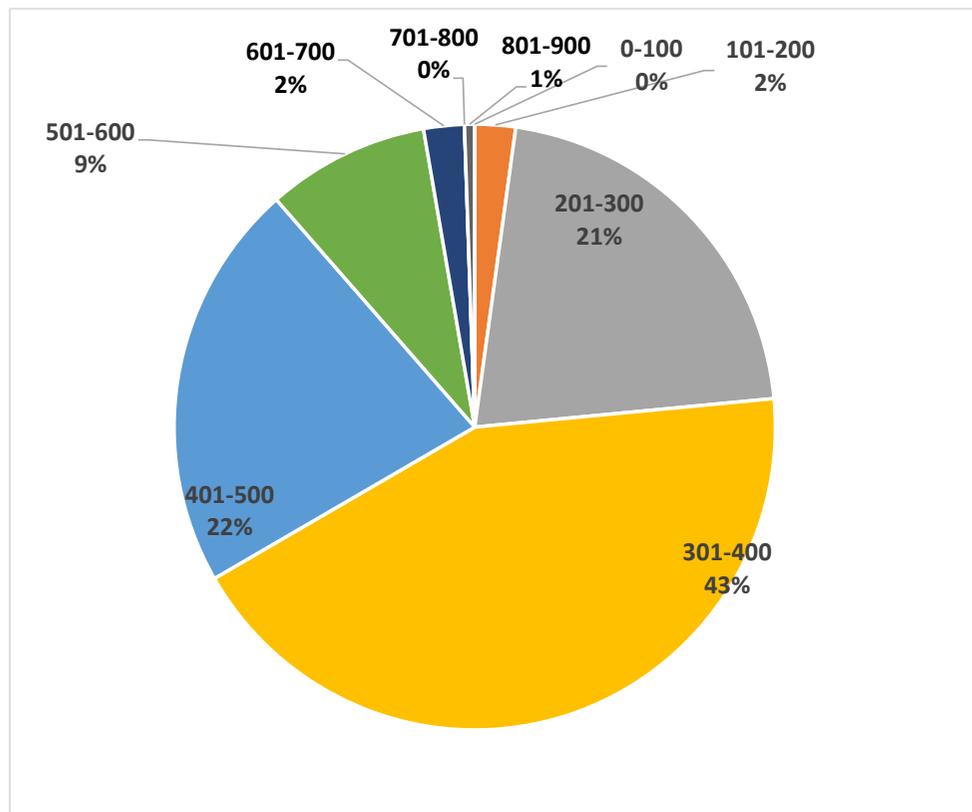
質問2. 英語学習で最も力を入れたい分野を1つだけ選択してください。

力を入れたい分野名	分野選択数
スピーキング	45
ライティング	8
リーディング	41
リスニング	45
語彙	11
特になし	19
文法	10
(回答なし)	4



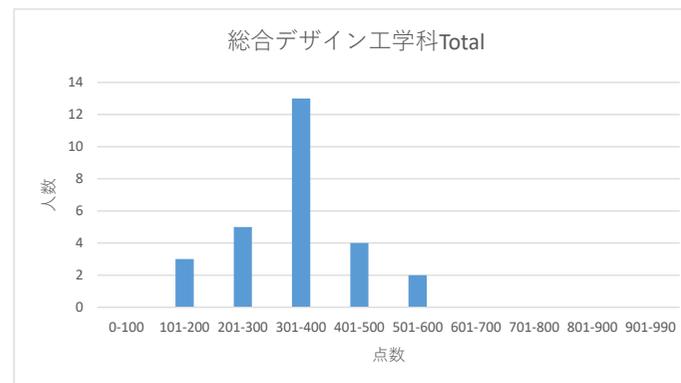
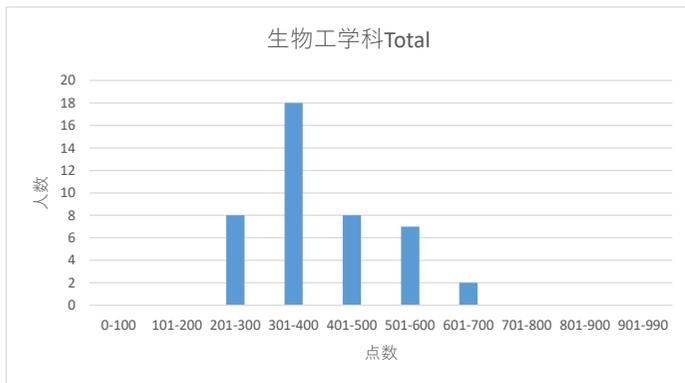
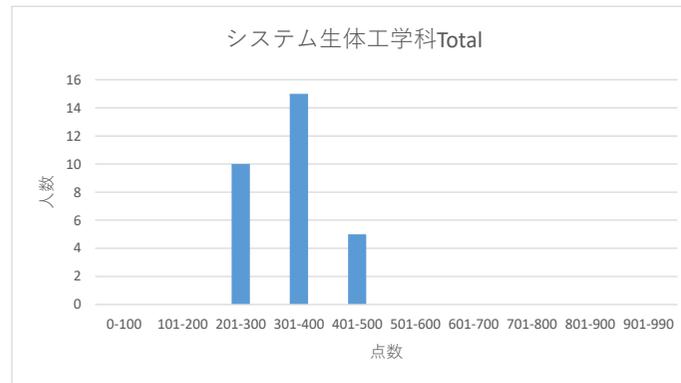
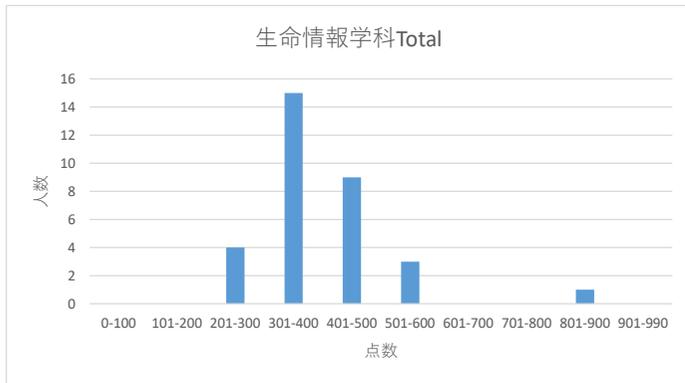
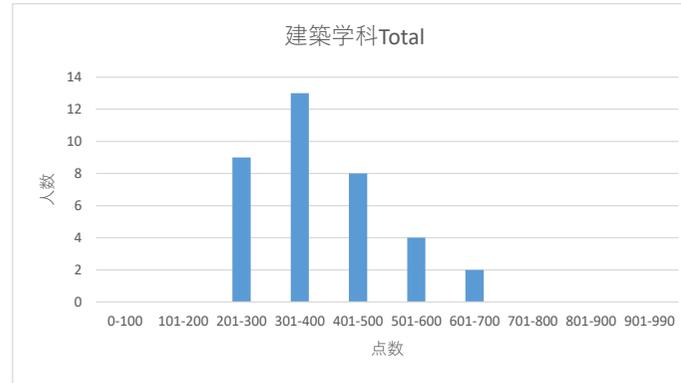
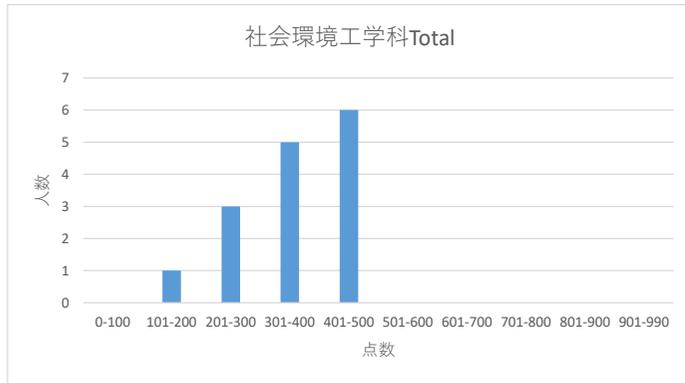
【令和4年度 学部3年生TOEIC-IPテスト結果の得点内訳】

0-100	0	0.0%	400点以下	122
101-200	4	2.2%	401点以上	61
201-300	39	21.3%		
301-400	79	43.2%		
401-500	40	21.9%		
501-600	16	8.7%		
601-700	4	2.2%		
701-800	0	0.0%		
801-900	1	0.5%		
901-990	0	0.0%		
Total	183	100%		



※端数整理のため、左記グラフの割合合計とは差異があります。

【令和4年度 学部3年生TOEIC-IPテスト結果 学科別の得点内訳】



【令和4年度 学部3年生 TOEIC-IPテスト結果 1年次結果との比較検証】

TOEIC Listening & Reading IPテスト結果
令和2年9月25日（金）実施

受験者【対象：学部1年生】

	受験者数	学生数	受験率 (%)
社会環境工学科	46	50	92.0
建築学科	43	56	76.8
生命情報学科	45	50	90.0
システム生体工学科	43	44	97.7
生物工学科	43	48	89.6
総合デザイン工学科	36	45	80.0
計	256	293	87.4

合計得点（満点：990点）

	最高	最低	平均
社会環境工学科	440	175	310.2
建築学科	685	190	351.4
生命情報学科	835	155	364.3
システム生体工学科	570	195	328.6
生物工学科	485	220	352.3
総合デザイン工学科	390	175	284.7
全体	835	155	333.2

【内訳】

Listening得点（満点：495点）

	最高	最低	平均
社会環境工学科	255	90	179.7
建築学科	370	100	184.8
生命情報学科	440	80	203.4
システム生体工学科	320	105	187.8
生物工学科	280	110	198.4
総合デザイン工学科	230	85	165.1
全体	440	80	187.2

Reading得点（満点：495点）

	最高	最低	平均
社会環境工学科	215	60	130.5
建築学科	315	90	166.6
生命情報学科	395	70	160.9
システム生体工学科	250	80	140.8
生物工学科	285	95	154.0
総合デザイン工学科	170	45	119.6
全体	395	45	146.1

【得点上位者】

学生A
1年次 835点 1位
3年次 未受験

学生B
1年次 755点 2位
3年次 875点 1位

学生C
1年次 685点 3位
3年次 680点 2位

【得点下位者】

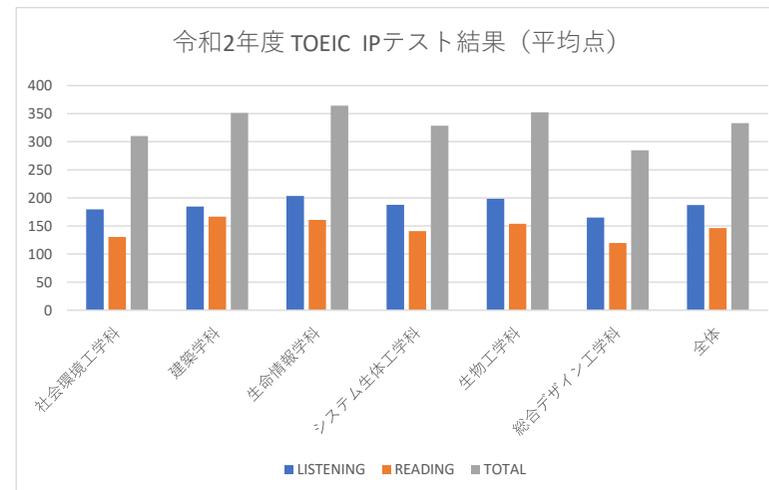
学生D
1年次 155点 256位
3年次 未受験

学生E
1年次 160点 255位
3年次 335点 112位

学生F
1年次 165点 254位
3年次 310点 133位

<過去との比較>

- ①受験率 87.4% → 63.8% 【23.6%の減少】
- ②合計得点（平均）333.2点 → 373.9点 【約40点UP】
- ③Listening得点（平均）187.2点 → 219.3点 【約32点UP】
- ④Reading得点（平均）146.1点 → 154.6点 【約8.5点UP】



2024年度

学生募集要項

大学院工学研究科(博士前期課程)

新型コロナウイルス感染拡大の状況により、試験日程・選抜方法等が変更になる場合があります。

変更する場合は、ホームページ等で速やかにお知らせします。

公立大学法人 前橋工科大学



Maebashi Institute of Technology

〒371-0816

群馬県前橋市上佐鳥町460番地1

前橋工科大学 学務課入試係

TEL 027-265-0111 (代表)

027-265-7361 (学務課直通)

FAX 027-265-3837

E-Mail nyushi@maebashi-it.ac.jp

(3) 入学手続先

「5. 出願 (3) 出願先」と同じ。

(4) 入学手続に必要なもの

- ①振込金受領書〔入学料〕【原本】：書類提出前に金融機関で納入してください。
- ②本学の受験票（又は合格通知書）
- ③入学手続案内で指示するもの
 - a) 誓約書（本学所定の用紙）
 - b) 学生調査票（本学所定の用紙）－ a) の裏面
 - c) カラー写真 2枚（縦4cm×横3cm。1枚は、学生調査票に貼付。）
 - d) 住民票の写し（本籍・続柄の表示は、不問。マイナンバー（個人番号）の記載がないもの）

※①及び②は、手続完了後に返却します。

※入学許可書の発行をもって、入学資格が発生します。

(5) 入学手続上の注意事項

- ①期間内に手続を完了しなかった者は、入学辞退者として取り扱います。
- ②必要な書類が全てそろっていない場合は、受け付けませんので、書類の提出の際には、十分確認をしてください。また、入学手続期間を過ぎて到着したものは、受け付けませんので、郵送の場合は、所要日数を十分に考慮して発送してください。
- ③入学料を納入した場合でも入学手続に必要な書類は、所定の期日までに受領されていなければなりません。
- ④卒業(修了)見込み又は、学位授与見込みで出願・合格し、入学手続を完了した場合でも、2024年3月31日までに卒業(修了)又は学位授与されないことが判明した場合には、入学資格を失います。
- ⑤社会人特別選抜入試で出願及び合格した場合は、入学手続時に本学所定の在職証明書を提出していただきます。提出ができない場合には、入学資格を失います。
- ⑥入学手続の完了後、やむを得ない理由で入学を辞退する場合は、直ちに本学に連絡し、2024年3月31日【必着】までに所定の入学辞退届を提出してください。
- ⑦一度受付をした入学手続書類及び納入された入学料は、どのような理由があっても、返還しません。ただし、次のア又はイのいずれかに該当する場合は、入学料を返還しますので、入学手続期間の最終日までに、学務課入試係に問い合わせてください（振込手数料は、本人負担となります）。
 - ア 二重に納入した場合
 - イ 入学料の納入後、入学手続をしなかった場合入学手続書類を受理しなかった場合は、本学から入学料の返還手続の案内を行います
- ⑧外国在住志願者の代理人が手続を怠ったために、本学に入学することができなくなっても、本学は、一切責任を負いません。

1 2. 外国語(英語)試験

TOEIC® L&R 又は TOEFL® の成績を換算したものを外国語(英語)試験の得点とします。

(1) 提出書類について

TOEIC® (公開テスト) の TOEIC® L&R 公式認定証^{注1}、又は TOEFL® (TOEFL-iBT®) 公式スコアレポート^{注2}のいずれか1つを出願期間内に提出してください。選抜試験実施日から起算して2年以内に受験したものに限りです。

^{注1} 本学で実施したTOEIC®-IP (団体特別受験制度) のスコア票も公式認定証と同等として認めます。

^{注2} 実施機関の米国ETSから直接本学に送付された公式スコアレポート(Official Score Reports)のみ認めます。各入試日程の出願期間内に、大学にスコアが届かない場合には、出願不受理となり選考の対象外となります。

TOEFL-iBT®受験申込時にDIコードを所定欄に記入するか、すでに受験が終わっている場合は、米国ETSに送付手続きを行ってください。

大学でスコアを受領するまでに数週間必要な場合もありますので、余裕を持って送付手続きを行ってください。

(Institution (DI) コード : D 0 7 3、Department コード : 0 0)

(2) 換算方法について

(ア) TOEIC® L&R公式認定証を提出した場合

[TOEIC® L&R得点 → 英語得点]

換算方法 :

○TOEIC®L&R得点 \geq 700 の場合は、100点とします。

○TOEIC®L&R得点 $<$ 700 の場合は、次の計算式から英語得点を換算します。

英語得点 = TOEIC® L&R得点 \times (100 / 700)

小数点第3位を四捨五入して小数点第2位の得点換算となります。

(イ) TOEFL®公式スコアレポートを提出した場合

[TOEFL®得点 → 英語得点]

換算方法 :

○TOEFL®得点 \geq 76 の場合は、100点とします。

○TOEFL®得点 $<$ 76 の場合は、次の計算式から英語得点を換算します。

英語得点 = TOEFL®得点 \times (100 / 76)

小数点第3位を四捨五入して小数点第2位の得点換算となります。

1 3 . 受験上の注意事項

- (1) 受験者は、試験開始の30分前までに指定された試験室又は面接控室に入室し、着席してください。
- (2) 専門科目試験については、試験開始後30分以内の遅刻に限り、受験を認めますが、試験時間の延長は、行いません。
- (3) 面接試験においては、本要項時間割に記載された全体の開始時に不在であった場合には、欠席したものと取り扱います。
- (4) 該当する試験を全科目受験しなかった者は、入学者選抜の対象から除きます。
- (5) 当日は、筆記用具を必ず持参してください。
- (6) 受験票は、必ず持参し、学力試験及び面接控室の机の通路側の見えやすい場所に置いてください。
- (7) 試験当日、受験票を忘れた場合は、速やかに1号館1階事務局で受験票の再発行手続きを行ってください。また、受験票は、入学手続きの際に必要となりますので、試験後も大切に保管してください。
- (8) 試験中に使用を許可する物は、鉛筆(シャープペンも可)、消しゴム、鉛筆削り、時計(計時機能のみのもの)に限ります。
- (9) 試験室に入室後、携帯電話やスマートフォンの電源を切ってください。また、時計のアラーム等、音の出る機能も切ってください。
- (10) 試験室における受験者間の物品の貸借は、一切認めません。
- (11) 昼食が必要な場合は、持参し、自席で食事を取ってください。
- (12) 忘れ物がないように注意し、自分のゴミは、持ち帰ってください。
- (13) 駐車場は、数が限られておりますので、できるだけ公共交通機関等をご利用ください。

【英語科目】 学科再編に伴うカリキュラム変更効果検証資料

学科再編に伴い、英語科目では、以下のカリキュラム変更を行った。

- (1) 英語 A～D の必修科目化
- (2) 習熟度別クラス編成の導入
- (3) 発信型（スピーキングやライティング）科目（英語 B、D）の少人数制クラスの導入
- (4) TOEIC テスト上位者を対象としたアドバンスト科目の設定（3、4 年次対象のため 2024 年度より開講）

なお、英語 C、D は 2 年次対象のため、次年度以降の検証対象となる。

(1) 英語 4 科目を選択必修科目から必修科目にし、学生に対して、習熟度別の指定クラスでの受講を義務付けた。その結果、クラス間の人数の偏りが解消され、クラスサイズの違いによる教育効果の不公平が解消された。また、開講クラス数を適正に設定でき、教員の最適な配置が可能となった。図 1、2 に英語 A、B のクラス別履修者数（2020 年度～2022 年度）を示す。

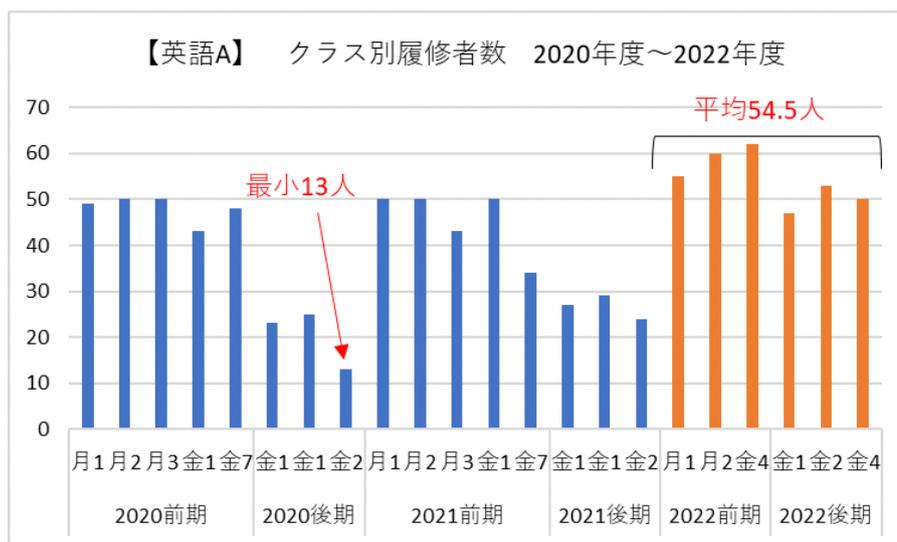


図 1 英語 A クラス別履修者数 2020 年度～2022 年度

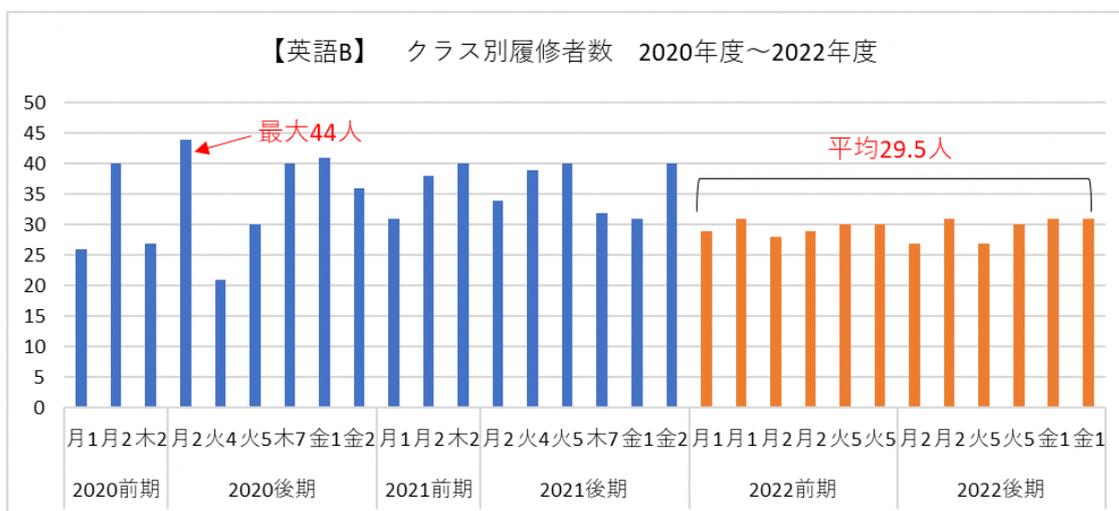


図 2 英語 B クラス別履修者数 2020 年度～2022 年度

(2) 習熟度別クラス編成を行い、英語 A は上位、中位、下位の 3 クラス、英語 B は各クラスをさらに 2 分割し、6 クラスに分けた。その結果、英語科目の成績と、入学時の英語の習熟度との相関は見られなかったが、教員からは、各クラスのレベルに応じた効果的な授業を実施しやすいという意見があった。また、学生のモチベーションについて、上位クラスでは相乗効果により学習意欲が向上する傾向が見られたが、下位クラスでは負の影響が出る面もあり、習熟度別クラス分けに関する結果については、ある程度の期間を経ないと明確な判断ができないと思われる。

(3) 少人数制クラスの導入について、英語 B では、図 2 で示した通り、平均 30 人以下のクラスが実現できた。

(1) ~ (3) の効果として、英語科目の単位取得率を図 3 に示す。

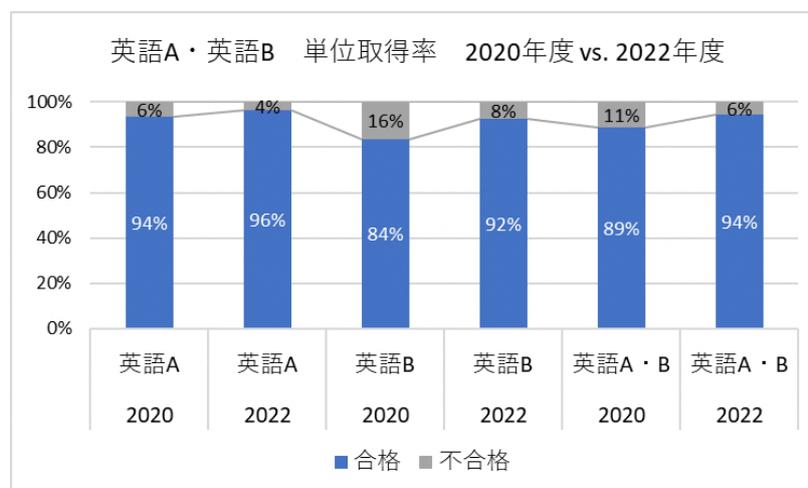


図 3 英語 A・B 単位取得率 2020 年度 vs. 2022 年度

図 3 の通り、英語 A・B とともに、合格率は向上している。2 科目合わせると、89% から 94% に上がっている。単位取得率の向上は、1 年次の成績がプログラム配属に関わることも影響していると思われるが、英語科目の改編が奏功しているとも考えられる。

以上をまとめると、英語科目の改編は、クラスサイズの均衡化と単位取得率の向上に一定の効果があったと考えられる。来年度以降、2 年次の結果と併せて、継続的な検証を実施していく。

○入試種別・課程年度別 1年次平均G P A推移

※2020課程生より、学校推薦型・総合型選抜合格者を対象に入学前教育を実施

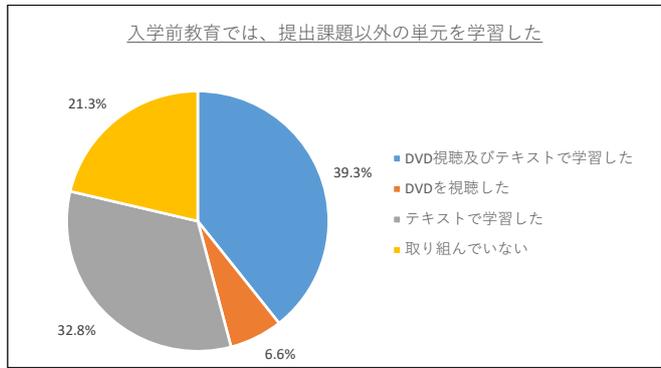
修得時学年	1
-------	---

平均 / G P A 値 行ラベル	列ラベル 2018	2019	2020	2021	2022
学校推薦型選抜					
累計	2.00	1.98	2.24	2.26	1.86
前期	1.89	1.92	2.08	2.18	1.87
後期	2.09	2.04	2.39	2.35	1.85
総合型選抜B					
累計		1.76	1.79	1.98	
前期		1.70	1.68	2.17	
後期		2.00	2.04	1.82	
一般選抜 前期日程					
累計	2.00	1.97	2.22	2.13	2.18
前期	1.95	1.97	2.14	2.12	2.18
後期	2.06	1.96	2.31	2.17	2.20
一般選抜 後期日程					
累計	1.90	2.11	2.27	2.12	
前期	1.80	2.06	2.19	2.07	
後期	2.01	2.17	2.39	2.18	
一般選抜 公立大学中期日程					
累計					2.29
前期					2.32
後期					2.26
特別選抜 社会人					
累計		1.14	1.36	1.87	
前期		1.18	1.36	1.97	
後期		1.09	1.92	1.80	
特別選抜 私費外国人留学生					
累計		1.65	1.15	1.52	
前期		1.72	1.04	1.27	
後期		1.57	1.25	1.82	
総合型選抜A					
累計				1.99	
前期				1.87	
後期				2.13	
総合型選抜					
累計					1.50
前期					1.56
後期					1.44
総計	1.97	1.99	2.21	2.13	2.11

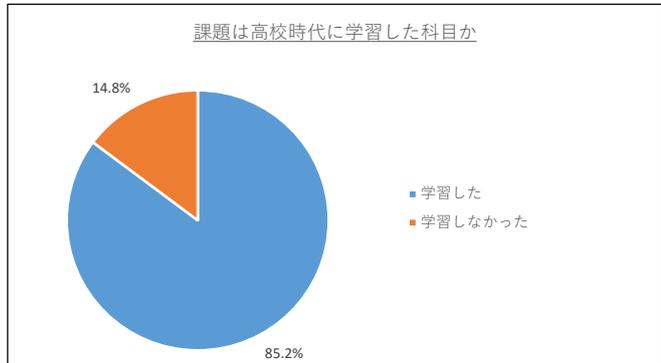
修得学期	累計
------	----

平均 / G P A 値 行ラベル	列ラベル				
	1年次	2年次	3年次	4年次	最終
学校推薦型選抜					
2019	1.98	2.39	2.35	2.87	2.24
2020	2.24	2.19	2.37		2.24
2021	2.26	2.50			2.38
2022	1.86				1.86
学校推薦型選抜 集計	2.04	2.36	2.36	2.87	2.13
総合型選抜B					
2019	1.76	2.27	2.26	2.79	1.99
2020	1.79	2.17	2.38		1.98
2021	1.98	2.73			2.07
総合型選抜B 集計	1.80	2.28	2.32	2.79	1.99
一般選抜 前期日程					
2019	1.97	2.29	2.33	2.93	2.19
2020	2.22	2.20	2.31		2.21
2021	2.13	2.19			2.15
2022	2.18				2.18
一般選抜 前期日程 集計	2.13	2.23	2.32	2.93	2.18
一般選抜 後期日程					
2019	2.11	2.38	2.37	2.84	2.29
2020	2.27	2.33	2.27		2.26
2021	2.12	2.28			2.20
一般選抜 後期日程 集計	2.17	2.33	2.32	2.84	2.25
特別選抜 社会人					
2019	1.14	1.75	2.55	2.55	1.89
2020	1.36	2.16	3.69		1.48
2021	1.87	1.57			1.74
特別選抜 社会人 集計	1.49	1.84	3.12	2.55	1.64
特別選抜 私費外国人留学生					
2019	1.65	1.53	2.28	2.29	1.80
2020	1.15	0.93	0.86		0.98
2021	1.52	1.72			1.62
特別選抜 私費外国人留学生 集計	1.42	1.33	1.57	2.29	1.44

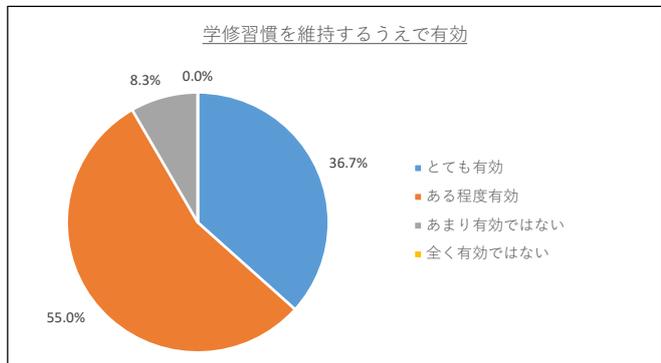
入学前教育では、提出課題以外の単元を学習した		
DVD視聴及びテキストで学習した	24	39.3%
DVDを視聴した	4	6.6%
テキストで学習した	20	32.8%
取り組んでいない	13	21.3%



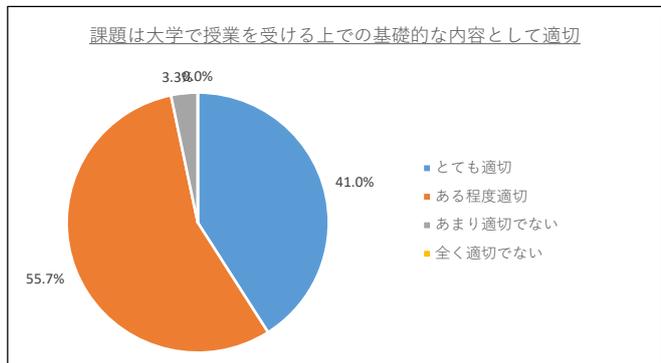
課題は高校時代に学習した科目だった		
学習した	52	85.2%
学習しなかった	9	14.8%



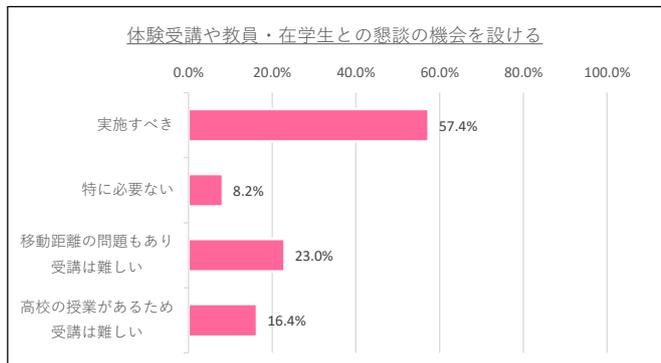
学修習慣を維持するうえで有効		
とても有効	22	36.1%
ある程度有効	33	54.1%
あまり有効ではない	5	8.2%
全く有効ではない	0	0.0%



課題は大学で授業を受ける上での基礎的な内容として適切		
とても適切	25	41.0%
ある程度適切	34	55.7%
あまり適切でない	2	3.3%
全く適切でない	0	0.0%



体験受講や教員・在学生との懇談の機会を設ける（複数回答）		
実施すべき	35	57.4%
特に必要ない	5	8.2%
移動距離の問題もあり受講は難しい	14	23.0%
高校の授業があるため受講は難しい	10	16.4%



2022年度 分野横断型工学研究シンポジウム

2023年2月20日（月）～22日（水）

会場 151 講義室（20日）

体育館（21日）

141 講義室（22日）

プログラム集

前橋工科大学大学院工学研究科

2022 年度分野横断型工学研究シンポジウム参加の皆様へ

工学研究科長 善野修平

今回の 2022 年度工学研究シンポジウムは、2013 年度より始まりましてちょうど 10 年目となります。新型コロナウイルス、インフルエンザウイルスの流行で、大変不安を感じられている方も多いかと思いますが、今年度は工科大キャンパス内で対面にて開催させていただきます。ご参加の皆様方におかれましては、感染予防対策としてのマスク着用等のご配慮をお願い申し上げます。1 日目の特別講演、2 日目のポスター発表は、地域の皆様に公開する形で開催致します。

1 日目は、大学院博士後期課程 2 年生の博士研究の発表、学内の重点課題対応研究の発表、特別講演の順番で開催致します。博士課程の皆様は発表時間が質疑応答 10 分を含めて 40 分をお願いいたします。この機会に一度研究結果をまとめて頂きまして、今後の新しい展開、進展につなげて頂ければと思います。

2 日目は、大学院博士前期課程 2 年生の修士研究の発表、ぐんま地域イノベーションゼミの発表、学内の分野横断型研究の発表をポスター形式で行います。修士課程の皆様は、学生生活最後の研究発表になると思いますので、自分らしい講演をするように努めて頂ければ幸いです。一財)前橋工科大学研究教育振興財団から修士研究発表に関し、各専攻から 1 名の最優秀発表者を表彰いたします(表彰は学位記授与式にて実施)。ポスター発表ですが、午前・午後の始まりの 30 分程度で、まずは専攻ごとに学生全員の研究を紹介いたします。その後奇数・偶数番号に分けて 1 時間程度の発表・質疑応答の時間をそれぞれ設けております。2 年間の研究成果を、群馬前橋で発表する大変良い機会でありますので、活発な議論をされることを期待しております。

3 日目最終日は、定年退職予定の 8 名の教員の最終講義を行います。最終講義の皆様は、発表時間を 30 分をお願いいたします。それぞれの最終講義後に、花束・記念品の贈呈を予定しております。本学で長い間ご活躍頂きました先生方が退職されますので、多くの方々のご拝聴を頂ければ幸いです。

シンポジウム開催中、一財)前橋工科大学研究教育振興財団のご支援をいただきまして、コーヒースペースのスペース(1 日目 **152 講義室**; 2 日目**体育館**)を設置致します。交流の場として、情報交換、ディスカッション等にご利用頂ければと思います。

第1日目 2023年2月20日(月) : 会場 151 講義室

オープニング : 学長挨拶 9:00~9:10

環境・生命工学専攻による講演 D1~D4 : 9:10-12:10 座長 : 工学研究科長

D1 9:10-9:50

柱 Rc 梁 S の柱梁接合部の終局せん断耐力についての実験的な研究
環境・生命工学専攻 徐旭 (2146501)

D2 9:50-10:30

群馬県産キャベツおよびウメの付加価値向上を目指すための
総合的な取組に関する研究
環境・生命工学専攻 石原智 (2156501)

Coffee Break 10:30-10:50 : 152 講義室

D3 10:50-11:30

導電性繊維による刺しゅう式静電容量型体圧・接近センサを用いた
移乗介護技能評価システムの開発
環境・生命工学専攻 黒崎紘史 (2156502)

D4 11:30-12:10

ICT を活用した高齢者の身体情報共有システムはフレイル予防に有用か
環境・生命工学専攻 安井大輔 (2156503)

学長講評 : 12:10~12:30

Lunch Break 12:30-13:40

第1日目 2023年2月20日(月) : 会場 151 講義室

重点課題対応研究に関する講演 : 13:40-15:00 座長 : 工学研究科長

講演 1 13:40-14:20
がんゲノムの解読による診断技術の開発
生命工学領域 中村建介 教授

講演 2 14:20-15:00
微小重力天体探査に向けたキューブサット「MAEBASHI-SAT」の基礎開発
生命工学領域 荒井武彦 准教授

Coffee Break 15:00-15:20 : 152 講義室

特別講演 : 15:20-17:00 ≪一般公開≫ 座長 : 工学研究科長

講演 3 15:20-17:00
皆さんと共有したいこと
—人生に定年はない—
—好奇心に勝る能力なし—
大阪大学医学系研究科招聘教授 名取幸和 先生

閉会(1日目) : 工学研究科長 17:00~17:05

第2日目 2023年2月21日(火) : 会場 体育館 <<一般公開>>

**建設工学専攻、建築学専攻、生命情報学専攻、システム生体工学専攻、
生物工学専攻による研究発表(ポスター形式) : 9:00-16:30**

開会(午前の部) : 工学研究科長 9:00~9:10

〔午前の部〕

各専攻によるポスターの全体紹介 : 9:10-9:40

M1~M10 建設工学専攻
M11~M22 建築学専攻
M23~M31 生命情報学専攻
M32~M52 システム生体工学専攻
M53~M60 生物工学専攻

ポスターの説明1 : 9:40-10:50 奇数番号の発表

ポスターの説明2 : 10:50-12:00 偶数番号の発表

Lunch Break 12:00-13:30

開会(午後の部) : 工学研究科長 13:30~13:40

〔午後の部〕

各専攻によるポスターの全体紹介 : 13:40-14:10

M1~M10 建設工学専攻
M11~M22 建築学専攻
M23~M31 生命情報学専攻
M32~M52 システム生体工学専攻
M53~M60 生物工学専攻

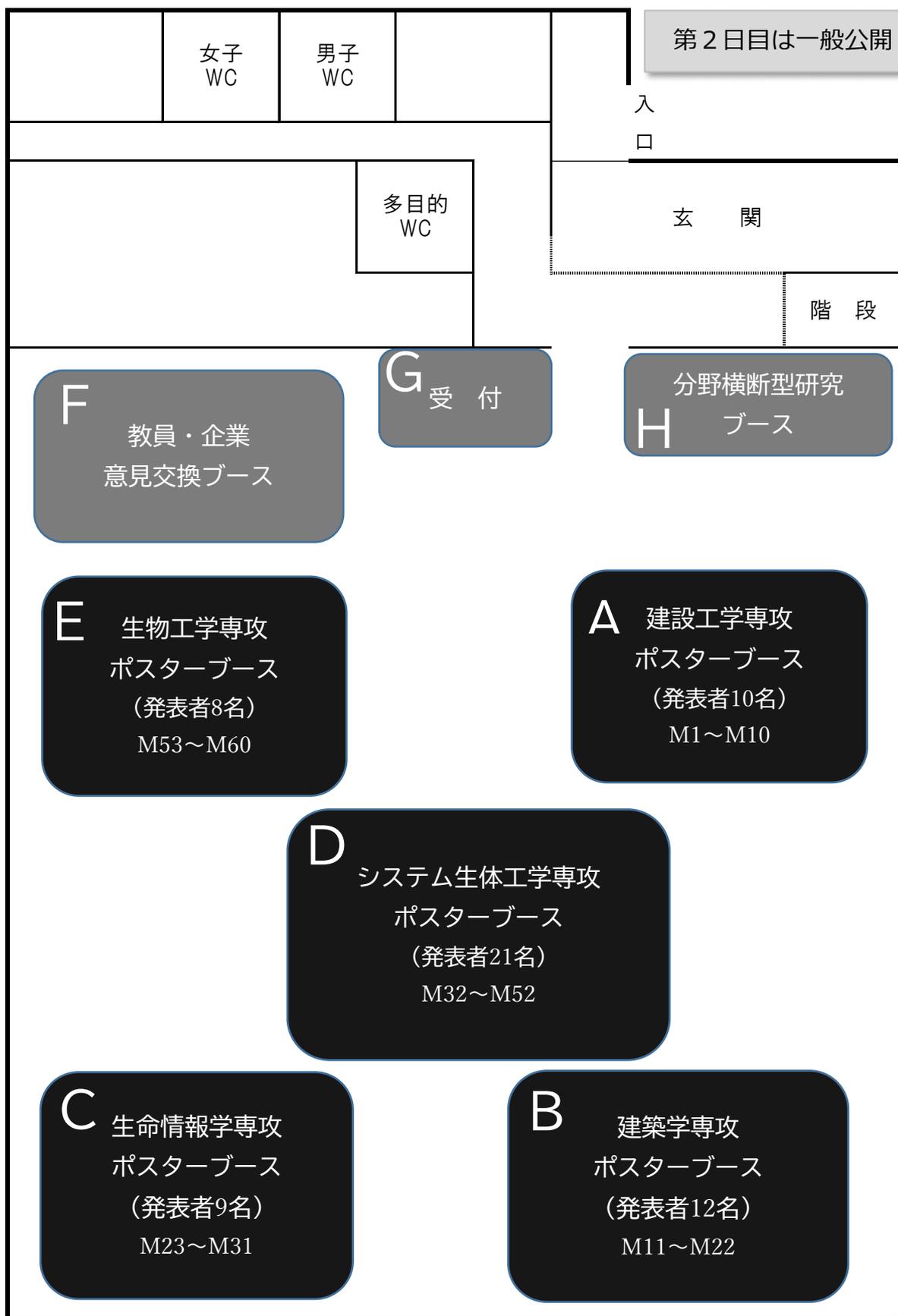
ポスターの説明3 : 14:10-15:20 奇数番号の発表

ポスターの説明4 : 15:20-16:30 偶数番号の発表

* 以上の修士研究の発表の他に、ぐんま地域イノベーションゼミ、分野横断型研究に関するポスターの発表・展示も行います

閉会(2日目) : 工学研究科長 16:30~16:35

第2日目 2023年2月21日（火）レイアウト図 : 会場 体育館



※以上の修士研究の発表の他に、ぐんま地域イノベーションゼミ（Dブース）、分野横断型研究（Hブース）に関するポスターの発表・展示もあります。

第2日目 2023年2月21日(火) : 会場 体育館 <<一般公開>>

建設工学専攻によるポスター発表 (M1~M10)

- M1** 9:40-10:50, 14:10-15:20
鋼構造物の補修・補強の設計法の現状分析と CFRP 接着工法の検証
建設工学専攻 姜佳佳 (2016004)
- M2** 10:50-12:00, 15:20-16:30
球集合体の体積一定条件下のせん断で生じる間隙変化の数量化分析
建設工学専攻 高塚晴哉 (2016005)
- M3** 9:40-10:50, 14:10-15:20
単一の地震計を用いた地盤損傷度の判定手法の開発
建設工学専攻 相田依吾 (2116001)
- M4** 10:50-12:00, 15:20-16:30
水締めによる締固め効果の高い地盤材料の開発
建設工学専攻 植松慶 (2116002)
- M5** 9:40-10:50, 14:10-15:20
施行時特例市における BRT の受容性に関する研究
建設工学専攻 木之下僚太郎 (2116004)
- M6** 10:50-12:00, 15:20-16:30
前橋市中心市街地における土地利用と歩行者交通量の関係
—イベント期、新型コロナウイルス感染期に着目して—
建設工学専攻 張童生 (2116005)
- M7** 9:40-10:50, 14:10-15:20
観光客の意向を反映した情報提供システムに関する研究
建設工学専攻 陶星宇 (2116006)
- M8** 10:50-12:00, 15:20-16:30
回遊式庭園に用いられる造景手法に関する研究
—六義園を事例に—
建設工学専攻 豊吉慶輔 (2116007)
- M9** 9:40-10:50, 14:10-15:20
中小 DMO の KPI 設定・データ収集の方法に関する研究
—観光統計の活用および DMO と道の駅の連携の検討—
建設工学専攻 宮崎友裕 (2116008)
- M10** 10:50-12:00, 15:20-16:30
土粒子間に働くサクシオン応力に着目した土の不飽和強度の推定
建設工学専攻 渡辺純平 (2116009)

第2日目 2023年2月21日(火) : 会場 体育館 ‹‹一般公開››

建築学専攻によるポスター発表 (M11~M22)

- M11** 9:40-10:50, 14:10-15:20
ふさぎ板形式の鉄筋コンクリート柱・鉄骨梁構造柱梁接合部の有効幅に関する
3次元有限要素法解析
建築学専攻 石田圭 (2126001)
- M12** 10:50-12:00, 15:20-16:30
中山道宿場町における心象風景の継承方法の研究
—町のアイコンの増幅による新高崎宿の提案—
建築学専攻 内山裕嘉 (2126002)
- M13** 9:40-10:50, 14:10-15:20
倉庫街のまちづくりに関する研究
—スタジオ FREX リノベーション計画に向けて—
建築学専攻 大富有里子 (2126003)
- M14** 10:50-12:00, 15:20-16:30
三重県長島地域の変遷と水防に関する研究
—長島輪中における水防要素を用いた防災建築の提案—
建築学専攻 小塚翔二郎 (2126005)
- M15** 9:40-10:50, 14:10-15:20
応急仮設住宅の延長居住におけるコミュニティ意識の変遷に関する研究
—東日本大震災後の岩手県沿岸南部6市町を対象として—
建築学専攻 小林瑞稀 (2126006)
- M16** 10:50-12:00, 15:20-16:30
福島県国見町における地域的資源に関する研究
—農を共有資源とした連関する町づくり計画—
建築学専攻 佐藤竜介 (2126007)
- M17** 9:40-10:50, 14:10-15:20
戸建て住宅における室内浮遊微粒子濃度の実態とその変動要因に関する研究
—実測調査と数値シミュレーションによる分析—
建築学専攻 真田朱里 (2126008)
- M18** 10:50-12:00, 15:20-16:30
遺産と生命
—旧新町屑糸紡績所を再利活用したこども園と動物愛護施設の提案—
建築学専攻 高橋直人 (2126009)

第2日目 2023年2月21日(火) : 会場 体育館 <<一般公開>>

建築学専攻によるポスター発表 (M11~M22) <<続き>>

- M19** 9:40-10:50, 14:10-15:20
持続するノコギリ屋根
—桐生新町伝統的建築物群保存地区におけるパブリック空間の提案—
建築学専攻 爲我井雅揮 (2126011)
- M20** 10:50-12:00, 15:20-16:30
経年劣化する建築構造物の性能に関する研究
建築学専攻 坂東大湊 (2126012)
- M21** 9:40-10:50, 14:10-15:20
KPI手法を用いた地域活動参画の効果検証手法の検討
—前橋市広瀬団地 LIFORT プロジェクトを対象とした実証実験—
建築学専攻 藤橋和磨 (2126013)
- M22** 10:50-12:00, 15:20-16:30
超能力環境トマソン
—ベッドタウンに依り所をつくるエスパーアーバニズムの提案—
建築学専攻 宗形雅彦 (2126014)

第2日目 2023年2月21日(火) : 会場 体育館

《一般公開》

生命情報学専攻によるポスター発表 (M23~M31)

- M23** 9:40-10:50, 14:10-15:20
がんゲノムの変異解析
一舌がんの公開データ PRJEB25783 について—
生命情報学専攻 大崎開 (2146002)
- M24** 10:50-12:00, 15:20-16:30
液滴関連タンパク質における天然変性領域の特徴
生命情報学専攻 小澤侑平 (2146003)
- M25** 9:40-10:50, 14:10-15:20
HyperCuts と連分割トライを融合した高速パケット分類手法の提案
生命情報学専攻 小林大河 (2146004)
- M26** 10:50-12:00, 15:20-16:30
天然変性領域中の相互作用部位予測に関する考察
生命情報学専攻 多田遼平 (2146005)
- M27** 9:40-10:50, 14:10-15:20
トリプトファン合成酵素のリガンド輸送機構の分子論的研究
生命情報学専攻 徳満柁人 (2146006)
- M28** 10:50-12:00, 15:20-16:30
原核生物から真核生物に水平移動した遺伝子の分析
生命情報学専攻 橋本京弥 (2146007)
- M29** 9:40-10:50, 14:10-15:20
新しいヒトゲノム標準配列 chm13 について
生命情報学専攻 橋本颯 (2146008)
- M30** 10:50-12:00, 15:20-16:30
1次元折り紙に対する計算モデルの提案
生命情報学専攻 諸岡奎佑 (2146009)
- M31** 9:40-10:50, 14:10-15:20
蛋白質立体構造に及ぼす ATP 添加効果の分子論的研究
生命情報学専攻 山崎竜人 (2146010)

第2日目 2023年2月21日(火) : 会場 体育館

《一般公開》

システム生体工学専攻によるポスター発表 (M32~M52) 《続き》

- M42** 10:50-12:00, 15:20-16:30
荷物の積載および運搬を補助する多機能台車の開発
システム生体工学専攻 澤入良樹 (2156013)
- M43** 9:40-10:50, 14:10-15:20
体外循環ローラーポンプが赤血球形態に及ぼす影響の分光学的検討
システム生体工学専攻 柴田理沙 (2156014)
- M44** 10:50-12:00, 15:20-16:30
抑制性回避行動における連合性記憶の基礎的研究
システム生体工学専攻 清水倫寧 (2156015)
- M45** 9:40-10:50, 14:10-15:20
移乗介護動作評価を目的とした刺しゅう式自己容量型体圧・接近センサの応答解析
システム生体工学専攻 白畑紘夢 (2156016)
- M46** 10:50-12:00, 15:20-16:30
嚥下機能評価用パッシブ RFID アンテナの開発
システム生体工学専攻 上瀬亮 (2156017)
- M47** 9:40-10:50, 14:10-15:20
人間の骨格モデルを用いた装着者の腰関節の力・トルク
および椎間板圧縮力の算出に関する研究
システム生体工学専攻 高橋悠弥 (2156018)
- M48** 10:50-12:00, 15:20-16:30
空間的な感覚ノイズ刺激がもたらす確率共鳴による示指指尖部の知覚感度向上作用
システム生体工学専攻 深見佳紀 (2156020)
- M49** 9:40-10:50, 14:10-15:20
示指の視覚追従課題における予測制御に対するノイズ前庭電気刺激の作用
システム生体工学専攻 藤重佑樹 (2156021)
- M50** 10:50-12:00, 15:20-16:30
手指リズム学習における学習阻害因子がもたらす運動皮質興奮性の変化
システム生体工学専攻 布施遥 (2156022)
- M51** 9:40-10:50, 14:10-15:20
深層学習を用いたマウス行動実験用トラッキングシステムの構築
システム生体工学専攻 三澤翔也 (2156023)
- M52** 10:50-12:00, 15:20-16:30
脳波を用いた上肢パワーアシストのための肘関節トルクの推定に関する研究
システム生体工学専攻 湯座和平 (2156024)

生物工学専攻によるポスター発表 (M53~M60)

- M53** 9:40-10:50, 14:10-15:20
イネの病害抵抗性におけるイソマルトオリゴ糖 (IMO) の作用に関する解析
生物工学専攻 阿部小春 (2166001)
- M54** 10:50-12:00, 15:20-16:30
炎症メディエーターSTAT5 安定評価系の構築および抗炎症食品成分の探索・解析
生物工学専攻 石流愛梨 (2166002)
- M55** 9:40-10:50, 14:10-15:20
糖化アルブミン検出のための電子伝達性ペプチド修飾タンパク質プローブの開発
生物工学専攻 伊藤充 (2166003)
- M56** 10:50-12:00, 15:20-16:30
陸生発光細菌 *Photobacterium luminescens* の NAD(P)H 依存性 FMN 還元酵素の機能解析
生物工学専攻 植木達也 (2166004)
- M57** 9:40-10:50, 14:10-15:20
非アルコール性脂肪性肝疾患を予防する機能性成分に関する研究
生物工学専攻 太田晴佳 (2166005)
- M58** 10:50-12:00, 15:20-16:30
腸管上皮単糖トランスポーターSGLT1/GLUT5 を制御する食品成分の解析
生物工学専攻 木村詩文 (2166006)
- M59** 9:40-10:50, 14:10-15:20
ナノ粒子化した機能水を用いて空気中の雑菌・臭い物質を除去する研究
生物工学専攻 中木戸達也 (2166008)
- M60** 10:50-12:00, 15:20-16:30
イネにおける酢酸誘導性病害抵抗性に関する解析
生物工学専攻 森愛絵 (2166009)

第3日目 2023年2月22日(水) : 会場 141 講義室

開会 : 工学研究科長 9:55-10:00

最終講義 : 10:00-16:40

講義 1 10:00-10:40 座長 : 生命情報学専攻主任
バッタはなぜとぶか
生命工学領域 本間桂一 教授

講義 2 10:40-11:20 座長 : 基礎教育センター長
Language x Education x Technology = My Life
基礎教育センター 原島秀人 教授

講義 3 11:20-12:00 座長 : 工学研究科長
仕事、研究、教育
—私が学んだこと、大事だと思うこと—
生命工学領域 門屋利彦 教授

講義 4 12:00-12:40 座長 : 教職センター副センター長
本学教職課程の歩み
教職センター 小林清 教授

Lunch Break 12:40-14:00

講義 5 14:00-14:40 座長 : 建設工学専攻主任
景観研究という知の旅路
環境・デザイン領域 小林亨 教授

講義 6 14:40-15:20 座長 : 建設工学専攻主任
地震とエンジニア
環境・デザイン領域 岡野素之 教授

講義 7 15:20-16:00 座長 : 建築学専攻主任
地盤を相手に
環境・デザイン領域 関崇夫 教授

講義 8 16:00-16:40 座長 : 建築学専攻主任
確率論に基づく構造物の安全性評価に関する研究をとおして
環境・デザイン領域 高橋利恵 教授

閉会 : 工学研究科長 16:40-16:45

2022年度 分野横断型工学研究シンポジウム 優秀発表賞

建設工学専攻

2116009 渡辺純平

土粒子間に働くサクシオン応力に着目した土の不飽和強度の推定

建築学専攻

2126014 宗形雅彦

超能力環境トマソン

—ベッドタウンに依り所をつくるエスパーアーバニズムの提案—

生命情報学専攻

2146003 小澤侑平

液滴関連タンパク質における天然変性領域の特徴

システム生体工学専攻

2156004 岩井隼人

触覚センサを用いた義手制御のための実時間動作判別に関する研究

生物工学専攻

2166005 太田晴佳

非アルコール性脂肪性肝疾患を予防する機能性成分に関する研究

2022年度 分野横断型工学研究シンポジウム 特別賞

生物工学専攻

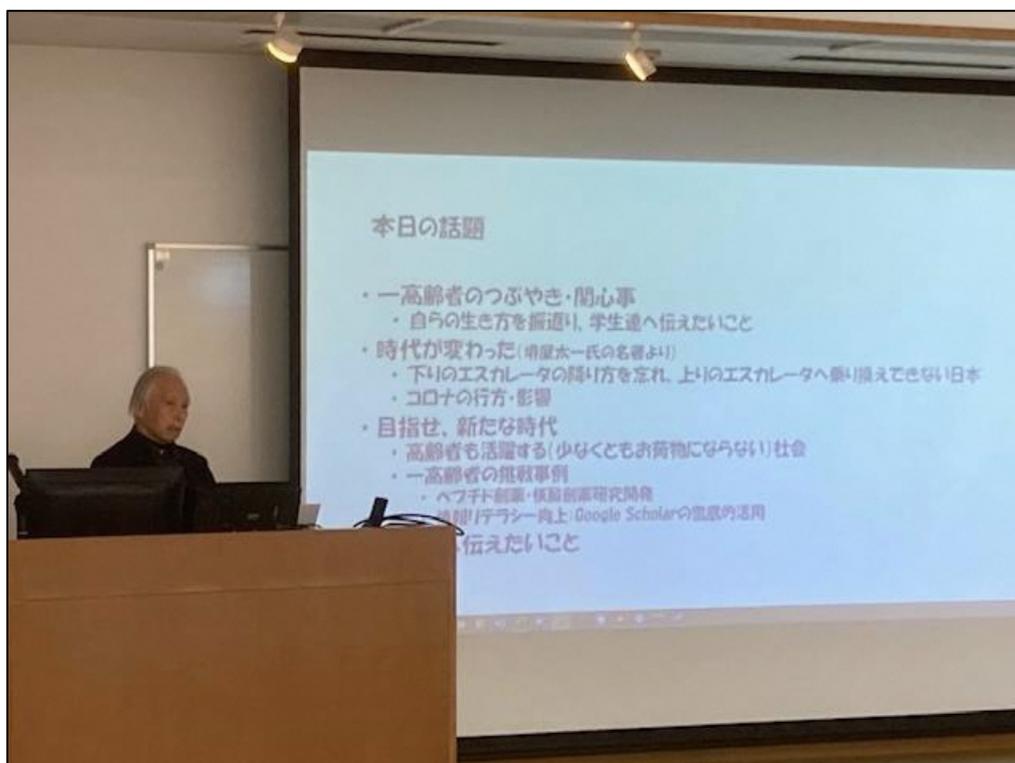
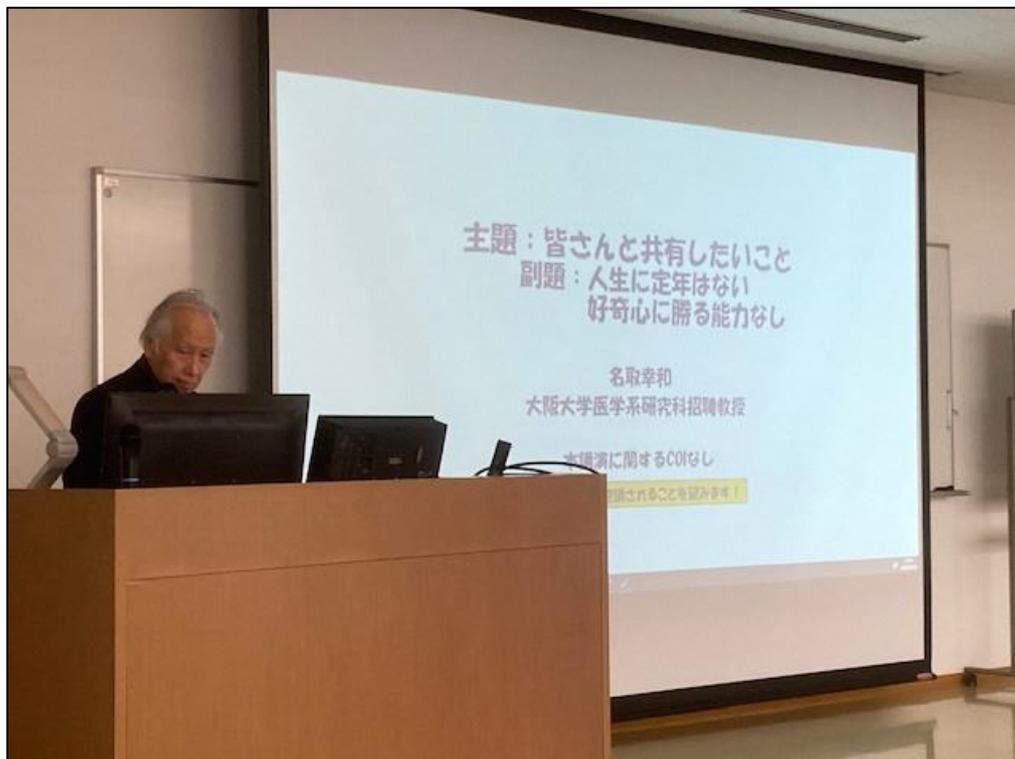
2166002 石流愛梨

炎症メディエーターSTAT5 安定評価系の構築および抗炎症食品成分の探索・解析

2023/2/20 2022 分野横断型シンポジウム 特別講演会

『皆さんと共有したいこと ～人生に定年はない、好奇心に勝る能力なし～』

講師：大阪大学医学系招聘教授 名取幸和氏



令和4年度海外語学留学支援 支援対象者

	学年	所属	TOEIC スコア	渡航先	渡航時期	渡航期間	経費 (円)	支援 対象経費 (円)	支援 申請額 (円)
1	2	建築学科	575	オーストラリア（ブリスベン）	春	R5. 2. 11～R5. 3. 11	628,270	398,000	199,000
								計	199,000

令和4年6月24日

前橋市長 山本 龍 様

公立大学法人前橋工科大学
理事長 福田 尚 久



令和3年度 財務諸表の提出について

地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）第34条の規定に基づき、下記のとおり財務諸表等について提出いたします。

記

1 提出書類

(1) 財務諸表

(2) 添付書類

ア 事業報告書

イ 決算報告書

ウ 監査報告書

2 連絡先

前橋工科大学事務局 総務課 財務係 池田

前橋市上佐鳥町460番地1

電話027-265-7351 FAX027-265-3837

令和4年6月24日

前橋市長 山本 龍 様

公立大学法人前橋工科大学
理事長 福田 尚 久



剰余金の使途に係る承認の申請について

令和3年度決算に伴う剰余金の使途について、地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）第40条第3項の規定に基づき、下記のとおりご承認いただきたく申請いたします。

記

1 承認を受けようとする額
92,439,783円

2 前項の金額を充てようとする剰余金の使途
公立大学法人前橋工科大学中期計画に定める「教育研究の質の向上及び組織運営の改善」に充てるものとする。

前橋市指令（行）第2号
令和4年8月2日

公立大学法人前橋工科大学
理事長 福田 尚久 様

前橋市長 山 本



財務諸表の承認について（通知）

令和4年6月24日付けで提出のあった令和3年度財務諸表について、地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）第34条の規定に基づき、下記のとおり承認します。

記

- 1 承認する財務諸表
公立大学法人前橋工科大学令和3年度財務諸表

前橋市指令（行）第3号
令和4年8月2日

公立大学法人前橋工科大学
理事長 福田 尚久 様

前橋市長 山 本



剰余金の使途の承認について（通知）

令和4年6月24日付けで提出のあった剰余金の使途に係る承認の申請について、地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）第40条第3項の規定に基づき、下記のとおり承認します。

記

- 1 承認する額
92,439,783円
- 2 剰余金の使途
公立大学法人前橋工科大学中期計画に定める「教育研究の質の向上及び組織運営の改善」に充てる。

令和4年度公立大学法人前橋工科大学監事監査計画

公立大学法人前橋工科大学法人監事監査規程（平成25年規程第84号。以下「監事監査規程」という。）第9条の規定に基づき、令和3年度の公立大学法人前橋工科大学監事監査のうち定期監査に係る計画を次のとおり定める。

1 監査の基本方針

令和4年度の定期監査は、監事監査規程に基づき、公立大学法人前橋工科大学（以下「法人」という。）の業務の合法的、合理的及び効率的な運営を図るとともに、会計経理の適正を期することを目的として実施する。

2 監査の重点項目

監事監査規程第3条第2項各号に規定する事項のうち、次に掲げる事項について重点を置いて行う。

- (1) 中期計画及び年度計画に定める業務の実施状況
- (2) 組織及び制度全般の運営状況
- (3) 資産の取得、管理及び処分に関する事項

3 監査の対象部門

(1) 業務監査

公立大学法人前橋工科大学定款、公立大学前橋工科大学学則（平成25年規程第2号）及び公立大学法人前橋工科大学組織規則（平成25年規程第8号）に定める全組織とする。

(2) 会計監査

主に事務局を対象とする。

4 監査の実施期間

業務監査及び会計監査について、令和4年7月から令和5年6月までの間に実施する。

5 監査の方法

監事監査規程第6条の規定により、書面監査及び実地監査により行う。具体的には、次のとおり進める。

(1) 業務監査

- ア 理事会等主要な会議へ必要に応じて出席する。
- イ 必要と認められた関係資料を閲覧し、必要に応じて役員又は担当者から詳細な内容を聴取する。

(2) 会計監査

- ア 財務諸表等を閲覧する。

- イ 決算関係及び業務報告関係資料を閲覧する。
- ウ 決算担当職員に質疑を行う。

令和5年2月27日

公立大学法人前橋工科大学
理事長 福田 尚久 様

公立大学法人前橋工科大学監事 横田 哲明
同 廣瀬 信二

定期監査に係る中間報告書

地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）第13条第4項、公立大学法人前橋工科大学定款第9条第6項及び公立大学法人前橋工科大学法人監事監査規程（平成25年規程第84号）第13条第1項の規定により、令和4年度の定期監査の中間状況について、別紙のとおり報告します。

令和4年度定期監査の中間状況について

1 監査の概要

(1) 監査の種類

公立大学法人前橋工科大学法人監事監査規程（以下「規程」という。）第6条第1項に規定する定期監査のうち、同条第2項に規定する業務に関する監査を実施した。

(2) 監査対象期間

令和3年10月1日～令和4年9月30日

(3) 監査の方法

監査に当たっては、「令和4年度公立大学法人前橋工科大学監事監査計画」に定める監査の基本方針に従い、合理的かつ効率的な業務運営が図られているか及び適正な事務処理がなされているかに主眼を置いた。監査は、資料の提出並びに関係書類及び諸帳簿等の調査により行い、質疑応答をした。

2 是正又は改善を要する事項

なし

3 その他監事が必要と認める事項

なし

4 その他監事の意見

(1) 事業の見直し及び経費節減・合理化等を図った事項について

経費節減については数字だけにとどまらず実際の効果についても検討できるとよい。また合理化等を試みたが成果につながらなかった事業についても、改善実現に向けて引き続き取り組まれることを期待する。

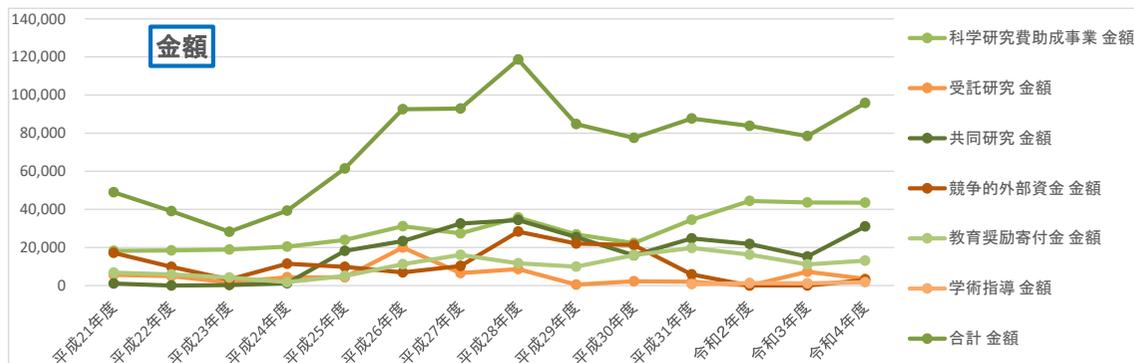
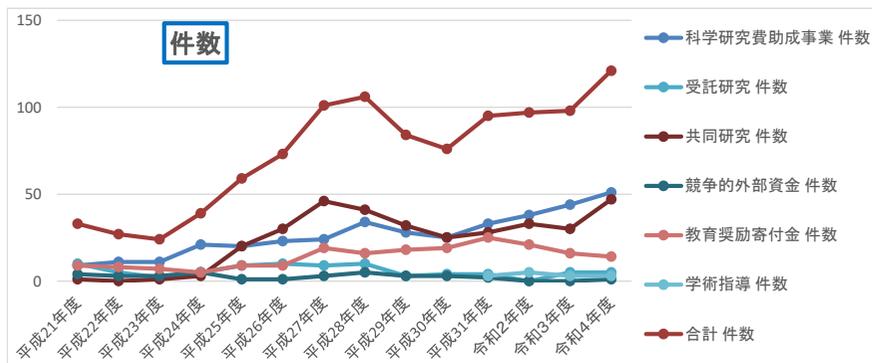
(2) 文書管理について

文書管理のデジタル化に向けた保存年限の見直しや保存資料の必要性等を検討し、業務効率化を進めることが望ましい。

外部研究資金の獲得状況(2023.3月現在)

(単位:千円)

	科学研究費助成事業				受託研究			共同研究			競争的外部資金			教育奨励寄付金			学術指導			合計			摘要
	件数	(内延長)	(内分担)	金額	内間接費	件数	金額	内間接費	件数	金額	内間接費	件数	金額	内間接費	件数	金額	内間接費	件数	金額	内間接費	件数	金額	
平成21年度	9	-	(2)	18,220	3,420	10	5,640	180	1	1,100	110	4	17,194	3,958	9	6,800	680				33	48,954	8,348
平成22年度	11	-	(3)	18,460	4,260	5	4,911	128	0	0	0	3	9,777	2,060	8	5,900	590				27	39,048	7,038
平成23年度	11	-	(7)	18,863	4,353	2	1,700	190	1	300	30	3	3,222	535	7	4,200	420				24	28,285	5,528
平成24年度	21	-	(8)	20,462	4,722	5	4,350	678	3	1,200	120	5	11,422	180	5	1,820	90				39	39,254	5,790
平成25年度	20	-	(8)	23,973	5,497	9	4,349	621	20	18,252	1,668	1	9,800	0	9	5,016	346				59	61,390	8,132
平成26年度	23	-	(6)	31,138	6,852	10	19,957	1,820	30	23,326	2,120	1	6,900	0	9	11,249	260				73	92,570	11,052
平成27年度	24	-	(7)	27,417	6,327	9	6,552	808	46	32,554	2,958	3	10,227	370	19	16,111	785				101	92,862	11,248
平成28年度	34	(1)	(14)	35,694	7,914	10	8,616	1,581	41	34,352	3,122	5	28,297	4,709	16	11,680	780				106	118,639	18,106
平成29年度	28	(1)	(12)	26,821	6,189	3	494	95	32	25,443	2,313	3	22,043	4,856	18	9,960	700				84	84,761	14,153
平成30年度	25	(1)	(11)	22,295	5,145	4	2,198	385	25	15,843	1,439	3	21,184	4,680	19	16,050	1,460				76	77,570	13,109
平成31年度	33	(2)	(14)	34,523	7,967	4	2,025	413	28	24,743	2,249	2	5,904	1,127	25	19,746	1,570	3	705	64	95	87,646	13,390
令和2年度	38	(0)	(18)	44,398	10,848	0	0	0	33	21,835	1,848	0	0	0	21	16,270	982	5	1,360	123	97	83,863	13,801
令和3年度	44	(3)	(19)	43,573	9,405	5	7,273	1,209	30	15,226	1,384	0	0	0	16	11,152	907	3	1,232	112	98	78,456	13,017
令和4年度	51	(8)	(26)	43,475	9,054	5	3,548	405	47	31,001	2,746	1	2,959	676	14	13,090	539	3	1,767	160	121	95,840	13,580



令和5年度科研費応募状況(令和4年10月時点)

1 科研費応募状況(代表者)

応募種目	NO	所属	職名	氏名
挑戦的研究(萌芽)	1	生命工学領域	教授	首藤 文洋
	2	生命工学領域	教授	本間 知夫
	3	工学教養領域	准教授	中島 徹
	4	生命工学領域	准教授	中山 明
基盤研究(B)	1	環境・デザイン領域	講師	山中 憲行
基盤研究(C)	1	生命工学領域	准教授	安藤 規泰
	2	環境・デザイン領域	准教授	伊佐 浩史
	3	工学教養領域	教授	伊藤 公智
	4	生命工学領域	准教授	遠山 宏明
	5	生命工学領域	教授	王 鋒
	6	生命工学領域	准教授	関口 達也
	7	生命工学領域	准教授	荒井 武彦
	8	生命工学領域	教授	三河 賢治
	9	生命工学領域	教授	山下 聡
	10	生命工学領域	教授	蒔田 由布子
	11	生命工学領域	准教授	小田垣 雅人
	12	生命工学領域	教授	松本 浩樹
	13	環境・デザイン領域	准教授	森 友宏
	14	環境・デザイン領域	准教授	辛島 一樹
	15	生命工学領域	准教授	星 淡子
	16	環境・デザイン領域	教授	石川 恒夫
	17	生命工学領域	准教授	石川 保幸
	18	工学教養領域	教授	浅川 嗣彦
	19	生命工学領域	教授	善野 修平
	20	生命工学領域	教授	中村 建介
	21	環境・デザイン領域	准教授	堤 洋樹
	22	環境・デザイン領域	教授	土倉 泰
	23	生命工学領域	教授	尾形 智夫
	24	生命工学領域	講師	富澤 眞樹
	25	環境・デザイン領域	准教授	平川 隆一
	26	環境・デザイン領域	教授	北野 敦則
	27	生命工学領域	教授	本多 一郎
	28	環境・デザイン領域	教授	麻里 哲広
	29	工学教養領域	准教授	矢口 義朗
	30	生命工学領域	准教授	林 秀謙
	31	環境・デザイン領域	講師	臼井 敬太郎
若手研究	1	工学教養領域	准教授	溝口 愛
	2	環境・デザイン領域	助教	赤間 章英
応募件数38件		応募者38人		

2 科研費応募状況(学外分担者)

応募種目	NO	所属	職名	氏名
基盤研究(S)	1	生命工学領域	教授	朱 赤
基盤研究(A)	1	環境・デザイン領域	准教授	佐川 孝広
基盤研究(B)	1	生命工学領域	教授	朱 赤
	2	環境・デザイン領域	准教授	森 友宏
	3	生命工学領域	准教授	星 淡子
基盤研究(C)	1	生命工学領域	教授	三河 賢治
	2	生命工学領域	教授	松本 浩樹
	3	生命工学領域	准教授	小田垣 雅人
	4	生命工学領域	准教授	小田垣 雅人
	5	生命工学領域	教授	本間 知夫
	6	環境・デザイン領域	教授	北野 敦則
学術変革領域研究(A)	1	生命工学領域	准教授	安藤 規泰
分担(学外)応募件数12件		応募者10人		

(代表機関)

(電気通信大学)
(室蘭工業大学)

(群馬大学)
(日本大学短期大学部)
(北海道大学)

(神奈川大学)
(東京電機大学)
(群馬県立産業センター)
(群馬大学)
(獨協医科大学)
(北海道大学)

(大阪大学)

3 科研費応募状況(学内分担者)

応募種目	NO	所属	職名	氏名
基盤研究(B)	1	工学教養領域	准教授	中島 徹
基盤研究(C)	1	環境・デザイン領域	教授	土倉 泰
	2	生命工学領域	准教授	中山 明
分担(学内)応募件数3件		応募者3人		

(代表者)
(山中)
(森)
(本多)

4 令和5年度科研費継続採択者状況(代表者のみ)

応募種目	NO	所属	職名	氏名
若手研究	1	生命工学領域	助教	藤田 佳祐
基盤研究(C)	1	生命工学領域	教授	福地 佐斗志
	2	環境・デザイン領域	教授	森田 哲夫
	3	環境・デザイン領域	准教授	佐川 孝広
	4	環境・デザイン領域	准教授	三田村 輝章
	5	生命工学領域	教授	朱 赤
	6	工学教養領域	准教授	新國 裕昭
	7	工学教養領域	教授	小林 清
	8	生命工学領域	教授	野村 保友
	9	生命工学領域	教授	菅原 一晴
	10	環境・デザイン領域	教授	宮川 睦巳
特別研究員奨励費	1	生命工学領域	教授	朱 赤
継続採択(代表)件数12件		継続採択者11人		

5 令和4年度末科研費課題終了予定者(代表者のみ)

応募種目	NO	所属	職名	氏名
研究活動スタート支援	1	環境・デザイン領域	助教	赤間 章英
若手研究	1	工学教養領域	准教授	溝口 愛
基盤研究(C)	1	工学教養領域	教授	伊藤 公智
	2	工学教養領域	教授	原島 秀人
	3	生命工学領域	准教授	優 乙石
	4	生命工学領域	准教授	林 秀謙
	5	生命工学領域	教授	菅原 一晴
	6	生命工学領域	教授	王 鋒
	7	生命工学領域	准教授	安藤 規泰
	8	生命工学領域	准教授	薩 秀夫
	9	工学教養領域	准教授	矢口 義朗
	10	生命工学領域	教授	三河 賢治
令和4年度末終了課題件数12件		代表者12人		

(延長予定)

※令和4年度末終了課題は、研究期間の延長を行う可能性あり(2月頃に申請)

新規応募率 38人/51人 → 74.5% (10月時点)

↓
分母はR4.10.1現在の全教員70人から、R5年度継続採択者(11人)、R4年度末退職予定者(7人下記※1参照)及びR5年度末退職者(1人)の計19人を除いた人数

※1 小林(清)教授はR4年度継続採択者(11人)のうちに含まれ、R4年度末退職者には含まれない。

※10月時点における分母の算出にあたっての集計では、「令和4年度末研究課題終了者」における延長予定者は考慮していない。

<参考>

- 令和4年度応募率 68%
- 令和3年度応募率 66.66%
- 令和2年度応募率 75%
- 平成31年度応募率 73.58%
- 平成30年度応募率 74.14%
- 平成29年度応募率 75.00%
- 平成28年度応募率 72.22%
- 平成27年度応募率 74.51%
- 平成26年度応募率 74.00%
- 平成25年度応募率 57.89%
- 平成24年度応募率 45.78%

6 所属別応募状況

所属	人 数							応募者数 (代表のみ)	応募件数		
	教員数	今年度及び 来年度 退職予定者 数	継続採択 者数	R4・R5末退 職予定だが 申請を行っ た人数	R5まで期間 を延長した 人数(※R4 新規申請者 は含まな い)	対象人数	代表	代表	分担 (学外)	分担 (学内)	計
環境・デザイン領域	31	4	4	0		23	12	12	3	1	16
生命工学領域	31	3	5	0		23	21	21	9	1	31
工学教養領域	8	1	2	0		5	5	5	0	1	6
合 計	70	8	11	0	0	51	38	38	12	3	53

<未提出者>

環境・デザイン領域 江本、岡野、小林(享)、駒田、関、高橋、田中、若松、石黒、梅津、舌間、杉浦、田所、稲見、井上

生命工学領域 門屋、本間(桂)、薩、佐藤、優

工学教養領域

一般財団法人 前橋工科大学研究教育振興財団
2022 年度理事会・総会 議案書

令和4年 6月 25日

4号議案 令和4年度 事業計画（案）について

令和4年度の事業計画について以下の様に提案致します。

① 学生研究活動支援事業 2022

学生が主に東京エリアで開催される研修会、学術集会等への参加を積極的に支援する。このような学生の研究力とコミュニケーション能力の涵養をはかり、その活動を積極的に発信することで、大学のアピールができるように支援を行う。

② 分野横断型工学研究科シンポジウム支援事業 2022

次会のシンポジウムは開催方法に見直しが行われる計画である。博士前期(修士)課程の学生の発表は、ポスターによるものと計画されているが、会場にトークルームスペースを設置し、大学院生、教員が研究テーマについてリラックスして討論できる場を設け、専門分野の異なる研究者間の共同研究の芽を育むとともに、異種の研究間の結合を促すことで、前橋工科大学の研究のイノベーションを誘発する。

③ 大学院博士前期課程学生研究奨励事業 2022

大学院修士課程最終学年の学生の優秀な研究を表彰することで、大学院の一層の活性化をはかる。

④ 大学研究広報支援事業 2022

財団のホームページを充実させ、大学の研究内容を国内外に発信する。そのシステム開発と情報収集、編集のための事業を実施する。

⑤ 前橋工科大学英語村 2022 の開催

現代のグローバル化の流れに乗り遅れることのないように、前橋工科大学学生の英語コミュニケーション能力を增强するために、適当な時期、時間に工科大内に「英語村」を設定し、英語のみで会話する環境を提供する。その際参加者がリラックスできるように飲料やお菓子の提供を支援する。

5号議案 令和4年度 活動予算書(案) について

4号議案にある事業計画を実施するために以下の様に活動予算を計上する。

- ① 学生研究活動支援事業 2022
教員研究費等で支援を受けることができない研究事業に参加する学生に対して、学長、工学研究科長が認める事業の場合は、参加費、交通費等の支援を行う。

200,000 円
 - ② 分野横断型工学研究シンポジウム支援事業 2022
シンポジウム開催期間中のトークルームの設置の費用を支援する。

50,000 円
 - ③ 大学院博士前期課程学生研究奨励事業 2022
シンポジウムにおいて優秀な発表を行った学生を表彰する。

155,000 円
 - ④ 大学研究広報支援事業 2022
財団のホームページの充実をはかり、学内で展開されている研究のうち、インパクトの大きい課題について取材記事を掲載し、アーカイブを作成できるようにする。

200,000 円
 - ⑤ 前橋工科大学英語村 2022 の開催経費
参加者がリラックスできるように飲料、菓子などの提供を支援する。

50,000 円
 - ⑥ 交通費の支給
理事会・総会の出席者に、交通費として一律 5000 円を支給する。

65,000 円
- 予算総計 720,000 円

令和5年度 公立大学法人前橋工科大学収支予算書[総括表](案)

収 入

(単位:千円)

大科目	中科目	R5当初予算額	R4当初予算額	備考
交付金収入		907,055	1,034,818	
	運営費交付金	833,013	850,529	標準運営費交付金
	特定運営費交付金	74,042	184,289	
学生等納付金収入		774,707	765,324	
	授業料	662,065	651,302	
	入学金	89,112	89,112	
	検定料	23,530	24,910	
寄附金収入		636	1,375	
	その他寄附金収入	636	1,375	後援会寄附金
雑収入		13,402	13,346	
	土地使用料収入	395	363	電柱等土地使用料等
	建物等使用料収入	1,544	1,632	教室使用料、食堂・売店使用料等
	手数料収入	525	500	証明手数料
	物品等除却収入	22	22	
	大学入学共通テスト実施経費収入	3,431	3,801	
	実費徴収金	385	504	図書館コピー機・役員賠償責任保険本人負担分等
	弁償及び違約金収入	1	1	
	その他雑入	7,099	6,523	同窓会・後援会受託費
	間接費収入		1,980	2,910
間接費収入		1,980	2,910	科学研究費間接費
目的積立金		33,642	7,530	
	目的積立金取崩収入	33,642	7,530	
収入合計(A)		1,731,422	1,825,303	

支 出

(単位:千円)

大科目	中科目	R5当初予算額	R4当初予算額	備考
教育経費		233,629	224,271	
	授業用物品等取得費	20,105	20,216	消耗品費、印刷製本費
	学生支援経費	69,412	74,826	行事費、旅費交通費、福利厚生費、奨学費
	教育設備等維持管理費	47,995	36,563	水道光熱費、保守管理費、修繕費
	地域貢献費	1,842	1,970	報酬、消耗品、印刷製本費、損害保険料、委託料
	教)報酬・委託・手数料	59,853	61,174	報酬、委託料、手数料
	その他教育経費	34,422	29,522	賃借料
研究経費		93,583	91,885	
	教員研究費	68,090	72,280	
	研究用物品等取得費	150	150	消耗品費、印刷製本費
	研究支援経費	8,326	5,645	通信運搬費、諸会費、学科配分経費
	研究設備等維持管理費	8,302	5,179	水道光熱費
	地域研究費	1,877	1,907	報酬、消耗品費、印刷製本費、旅費交通費、諸会費、研究費
	研)報酬・委託・手数料	6,838	6,724	報酬、委託料
教育研究支援経費		87,384	59,371	
	支援設備用物品等取得費	12,842	11,891	消耗品費、印刷製本費、図書費
	支援設備間接経費	5,667	6,673	旅費交通費、通信運搬費、諸会費
	支援設備等維持管理費	6,924	5,645	水道光熱費、燃料費、保守管理費、修繕費
	支)報酬・委託・手数料	25,945	19,849	委託料
	その他支援設備経費	36,006	15,313	賃借料、工事請負費
人件費		1,133,878	1,273,824	
	役員人件費	28,898	28,898	
	教員人件費	829,535	975,051	含教員退職手当
	職員人件費	275,445	269,875	
一般管理費		176,948	165,952	
	管)物品等取得費	22,084	6,750	消耗品費、印刷製本費
	管)間接経費	10,283	14,025	旅費交通費、通信運搬費、研修費、諸会費
	管)設備等維持管理費	76,361	79,656	水道光熱費、燃料費、保守管理費、修繕費
	管)報酬・委託・手数料	51,059	51,671	報酬、委託料、手数料
	その他一般管理費	17,161	13,850	賃借料、損害保険料、広告宣伝費、会議費、交際費、租税公課
予備費		6,000	10,000	
	予備費	6,000	10,000	
支出合計(B)		1,731,422	1,825,303	
収支差額(A)-(B)		0	0	

令和5年度当初予算（案）の概要

1 予算編成の考え方

令和5年度の当初予算は、収入予算が限られている中で、電気料金の大幅な増加や物価の上昇等によって、経常的な経費が増加したことから、例年よりも新規・充実事業に係る予算を縮小せざるを得ませんでした。そのような状況でも、大学にとって不可欠な予算はもちろん、教育・研究活動の質の向上に資する予算も確保する必要があることから、目的積立金の取崩しも行いながら、予算を編成しました。

2 予算総額

予算総額は、1,731,422千円で、前年度に比べ、93,881千円の減（5.1%減）となりました。

（単位：千円、%）

区 分	令和5年度	令和4年度	増減額	増減率
収入支出予算	1,731,422	1,825,303	▲93,881	▲5.1

3 収入予算

（単位：千円、%）

区 分	令和5年度当初		令和4年度当初		増減額	増減率
	予算額	構成比	予算額	構成比		
運営費交付金収入	907,055	52.4	1,034,818	56.7	▲127,763	▲12.3
うち 標準運営費交付金	833,013	48.1	850,529	46.6	▲17,516	▲2.1
	74,042	4.3	184,289	10.1	▲110,247	▲59.8
学生等納付金収入	774,707	44.7	765,324	41.9	9,383	1.2
寄附金収入	636	0.0	1,375	0.1	▲739	▲53.7
雑収入	13,402	0.8	13,346	0.7	56	0.4
間接費収入	1,980	0.1	2,910	0.2	▲930	▲32.0
目的積立金	33,642	2.0	7,530	0.4	26,112	346.8
収入合計	1,731,422	100.0	1,825,303	100.0	▲93,881	▲5.1

(1) 運営費交付金

ア 標準運営費交付金は、特殊要因経費として、2号館・図書館棟関連経費、学科再編経費、建築基準法第12条に基づく建築設備・防火設備点検委託費、公衆送信補償金を計上しましたが、教職員の若返りによる人件費の減により、全体で対前年度比17,516千円の減（2.1%減）となりました。

イ 特定運営費交付金は、奨学金が対前年度比5,514千円の減となったことや、退職者数の減少に伴い、退職手当が対前年度比104,733千円の減となったことにより、全体で対前年度比110,247千円の減（59.8%減）となりました。

減) となりました。

(2) 学生等納付金

入学金、授業料及び検定料は、学科再編に係る影響及び過去の実績を勘案した結果、全体として対前年度比9, 383千円の増(1. 2%増)となりました。

(3) 目的積立金

授業用備品等の償却資産の購入経費や、新研究センターの設置経費等の臨時経費に対して目的積立金を取り崩して充当するため、33, 642千円を計上しました。

4 支出予算

(単位：千円、%)

区 分	令和5年度当初		令和4年度当初		増減額	増減率
	予算額	構成比	予算額	構成比		
教育経費	233, 629	13. 5	224, 271	12. 3	9, 358	4. 2
研究経費	93, 583	5. 4	91, 885	5. 0	1, 698	1. 8
教育研究支援経費	87, 384	5. 1	59, 371	3. 3	28, 013	47. 2
人件費	1, 133, 878	65. 5	1, 273, 824	69. 8	▲139, 946	▲11. 0
一般管理費	176, 948	10. 2	165, 952	9. 1	10, 996	6. 6
予備費	6, 000	0. 3	10, 000	0. 5	▲4, 000	▲0. 4
支出合計	1, 731, 422	100. 0	1, 825, 303	100. 0	▲93, 881	▲5. 1

(1) 教育経費

新規事業として、分野横断型シンポジウムにおけるポスターセッション導入経費115千円及びネットワーク内の効率的なデータ転送に必要であるL2スイッチの購入経費2, 662千円を計上しました。また、充実事業として、151講義室の遠隔授業配信用システムの整備費用2, 071千円を計上しました。

なお、修学支援制度の対象人数の減少に伴う奨学金の5, 514千円の減等もありましたが、電気料金の高騰に伴う11, 453千円の増が大きく影響し、全体として対前年度比9, 358千円の増(4. 2%増)となりました。

(2) 研究経費

新規事業として、新研究センター設置に伴う経費2, 163千円を計上しました。

なお、教員の若返り等に伴う一般研究費4, 190千円の減もありましたが、電気料金の高騰に伴う2, 681千円の増等が影響し、全体として対前年度比1, 698千円の増(1. 8%増)となりました。

(3) 教育研究支援経費

新規事業として、2号館・図書館棟の移設に係る仮設図書館の賃借料19, 140千円を計上しました。また、円安に伴う外国雑誌や電子ジャーナル使用料の

価格上昇等もあり、全体として28,013千円の増(47.2%増)となりました。

(4) 人件費

教職員の若返りに伴う給料、手当等の減や、教員退職手当の減により、全体として対前年度比139,946千円の減(11.0%減)となりました。

(5) 一般管理費

新規事業として、防犯カメラ一式更新に伴う経費16,500千円を計上しました。

なお、令和4年度で事業が完了した工事や委託業務に係る減等があったことから、全体として対前年度比10,996千円の増(6.6%増)となりました。

5 主な新規・充実事業等の概要

(1) 教育経費

ア 分野横断型シンポジウムにおけるポスターセッション導入経費 **新規** 115千円

修了する大学院生の研究成果の発表の場として開催している分野横断型シンポジウムについて、従来の学生が1人ずつ発表する形式から、ポスターセッション形式に変更し、当該ポスター印刷の外注経費を計上するものです。

なお、この取組は、令和4年度に予算を流用して試行的に実施し、好評であったことから、令和5年度も引き続き実施しようとするものです。

イ L2スイッチ購入経費 **新規** 2,662千円

令和4年8月の落雷による停電に伴い、5号館のL2スイッチ(ネットワーク内の効率的なデータ転送に必要な機器)が故障したため、予備機と交換して運用しています。今後、同様の事態が発生した場合、本学の教育及び研究活動に支障を来すことが想定されるため、新たに予備機として2台を購入するための経費を計上するものです。

ウ 遠隔授業配信用システム整備費 **充実** 2,071千円

令和4年度に遠隔授業配信用システムを導入した141講義室及び545講義室に続き、履修者数が多く、複数講義室を繋いで授業を行う工学基礎科目(履修者数300人程度)等に対応するため、学内で最大級の講義室である151講義室に同様のシステムを導入するものです。これにより、授業効果の改善や、教職員の負担軽減が期待されます。

(参考：令和4年度 3,811千円)

(2) 研究経費

ア 新研究センター設置経費 **新規** 2,163千円

令和5年度から設置する二つの研究センターの周知・運用に係る経費を計上するものです。共同研究の実績の評価に係る協議等を行う外部有識者の報酬や、旅費、PR用リーフレット、動画制作費等に係る経費を計上します。

イ 特許権取得に係る出願審査請求票 **新規** 99千円
本学所有の単独特許について、特許権を取得するため、出願審査請求手続に係る業務委託料を計上するものです。

※ 出願審査請求申請期限：令和6年3月23日

(3) 一般管理費

防犯カメラ一式更新工事 **新規** 16,500千円
学内の防犯カメラの老朽化が進み、随所で不具合が生じていることから、機器の一括更新に係る経費を計上するものです。

6 2号館・図書館の移設等に係る経費について

(1) 市からの交付金を受けて大学が実施する事業

2号館・図書館の移設に係る経費の合計額は、35,613千円で、主な内容としては、仮設図書館の賃借料（19,140千円）、図書館用ICタグシステムの導入経費（4,631千円）、民間所有物件の賃借料（4,320千円）があります。

(2) 市が直接実施する事業

ア 2号館・図書館棟改築工事基本実施設計業務委託 30,000千円

※ 債務負担R6：70,000千円

イ 2号館・図書館棟アスベスト調査業務委託 4,000千円

ウ 2号館・図書館棟移設に係る既存学内施設改修 58,000千円

R3年度財務諸表による比較

財務指標	前橋工科大学	公大協工学部会 理工系法人グループ	備考 ※略称：【BS】貸借対照表、【PL】：損益計算書、【OC】：業務実施コスト計算書（行政サービス実施コスト計算書）
●人件費比率(%)	71.2	63.6	定義式 = 【PL】人件費 / 【PL】業務費計 × 100
【内訳】			
教員人件費比率	51.6	45.1	・公大協工学部会理工系法人よりも7.6%高い。
職員人件費比率	18.1	16.9	・教員人件費比率は、公大協工学部会理工系法人よりも6.5%高い。 ・職員人件費比率は、公大協工学部会理工系法人よりも1.2%高い。
●自己収入比率(%)	49.0	38.6	定義式 = (【OC】自己収入等 + 【科学研究費補助金の明細】科学研究費等の直接経費 + 間接経費) / (【PL】経常収益 + 【科学研究費補助金の明細】科学研究費等の直接経費) × 100
(参考数値/単位：円)			
科研費直接経費（附属明細）	35,088,818	99,915,758	・公大協工学部会理工系法人よりも10.4%高い。
科研費間接経費（附属明細）	9,405,164	26,904,875	・大規模施設整備について、本大学では市が直接執行（法人実施の大学もある。）
自己収入等（行コス）	865,179,322	1,332,767,401	
●教育経費比率(%)	15.1	13.4	定義式 = (【PL】教育経費) / (【PL】経常費用) × 100
			・公大協工学部会理工系法人よりも1.7%高い。 ・他大学に比べて、教育活動を重視した大学運営がされている。 ・言い換えれば、教育経費以外の経費に資源が十分に投入されていない。
●研究経費比率(%)	8.8	13.4	定義式 = (【PL】研究経費 + 受託研究費 + 共同研究費 + 【科学研究費補助金の明細】科研費等の直接経費) / (【PL】経常費用 + 【科学研究費補助金の明細】科研費等の直接経費) × 100
			・公大協工学部会理工系法人よりも4.6%低い。 ・他大学に比べ、科学研究費補助金や受託研究費等の外部資金の獲得が少ない。
●学生一人当たり教育経費(円)	191,736	270,969	定義式 = (【PL】教育経費) / (【大学基本情報】学生数 (聴講生・選科生・研究生等を除く))
(参考数値/単位：人)			
学生数	1,331	1,770	・公大協工学部会理工系法人よりも79,233円低い。 ⇒学生サービスの充実について要検討

R3年度財務諸表による比較

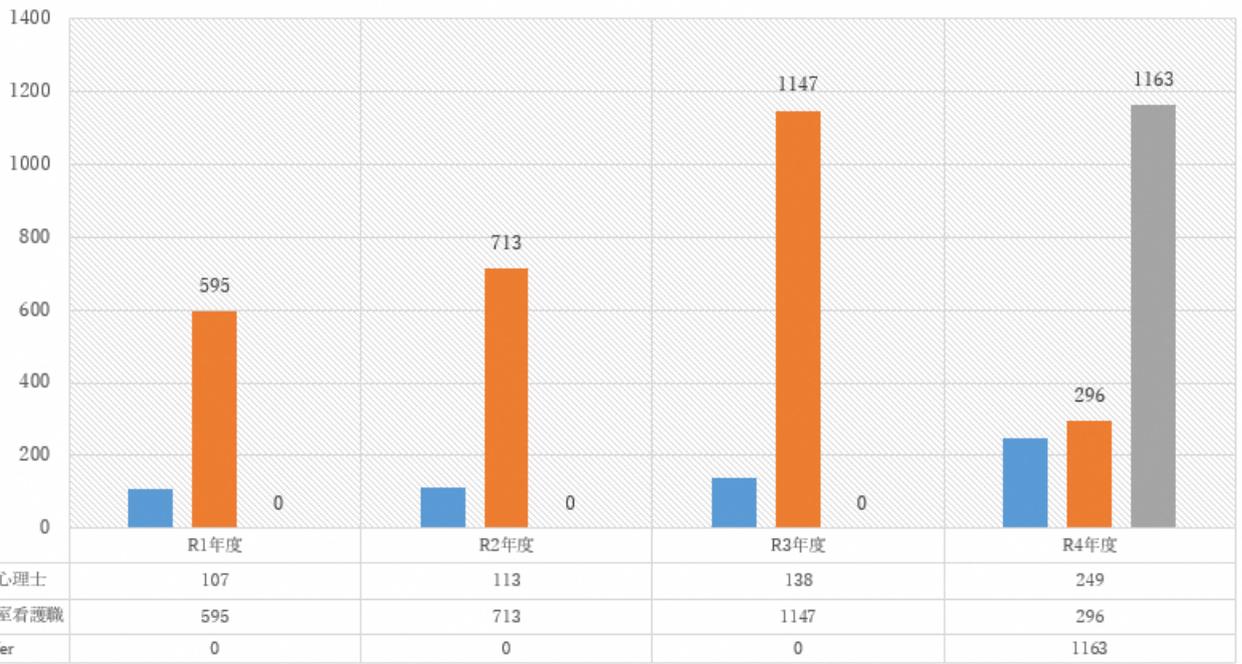
財 務 指 標	前橋工科大学	公大協工学部会 理工系法人グループ	備 考 ※略称：【BS】貸借対照表、【PL】：損益計算書、【OC】：業務実施コスト計算書（行政サービス実施コスト計算書）
●教員一人当たりの研究経費(円) (参考数値/単位：人) 教員数（学長除く）	2,284,744 67	3,790,237 142	定義式 = (【PL】研究経費 + 受託研究費 + 共同研究費 + 【科学研究費補助金の明細】科研費等の直接経費) / (【大学基本情報】教員数 (本務者)) ※国立大学では学長を教員数に含めているが、ここでは学長を除いている。 ・公大協工学部会理工系法人よりも1,505,493円低い。 ・企業等とのマッチングの問題もあるが、外部資金の獲得が少ない。
●減価償却累計率(%)	64.2	73.8	定義式 = (【BS】建物及び附属設備・構築物・その他の有形固定資産の減価償却累計額) / (【BS】建物及び附属設備・構築物・その他の有形固定資産の償却前取得簿価 < 含む損益外償却分 > - 減損損失累計額 < 含む損益外損失分 >) × 100 ・公大協工学部会理工系法人より9.6%低い、ほぼ同水準である。 ・有形固定資産の約7割が減価償却を終えていることになる。 ・今後、有形固定資産の更新等の必要性が高くなる。
●教員一人当たり学生数(人)	19	14	定義式 = (【大学基本情報】学生数 (聴講生・選科生・研究生等を除く)) / (【大学基本情報】教員数 (本務者)) ※国立大学では学長を教員数に含めているが、ここでは学長を除いている。 ・公大協工学部会理工系法人より5人多い。
●大学院生割合(%) (参考数値/単位：人) 大学院生数 学部生数	9.7 118 1,213	11.9 191 1,579	定義式 = (【大学基本情報】大学院生数 (修士課程 + 博士課程 + 専門職学位課程)) / (【大学基本情報】学部生数 (学部・本科)) × 100 ・公大協工学部会理工系法人よりも2.2%低い。 ・本学定員による大学院生割合は10.0%のため、やや学部生が多い。

※公大協工学部会理工系法人グループとは、一般社団法人公立大学協会が設置している「工学部会」に所属する17公立大学のうち、本大学と同種同規模の9公立大学を設置している公立大学法人としています。このグループ内の各指標の平均値を比較対象としています。

人件費比率	人件費が法人の業務費に占める割合を示す指標。この数値が高いほど、学内の教育・研究・診療等の業務が主に教職員等の人材に依っていると解釈できます。
自己収入比率	法人の経常的な収益(科研費等を含む)のうち、自身で稼得する自己収入等(学生納付金、受託研究および受託事業収益、附属病院収益、寄附金、科研費等)が占める割合を示す指標。この数値が大きいほど財務の自立性が高いと判断できます。
教育経費比率	教育活動で消費される人件費を除いた経費(教育経費)が大学の経常的な経費に占める割合。数値が大きいほど教育活動に投じられた物件費等が大きいと解釈できます。
研究経費比率	研究活動で消費される人件費を除いた経費(研究経費)が大学の経常的な経費に占める割合。数値が大きいほど研究活動に投じられた物件費等が大きいと解釈できます。
学生一人当たり教育経費	学生当たりの教育経費であり、この数値が大きいほど学生一人当たりにかけられた教育目的の物件費等が大きいことを示しています。
教員一人当たり研究経費	常勤教員当たりの研究経費であり、この数値が大きいほど教員一人当たりにかけられた研究目的の物件費等が大きいことを示しています。
減価償却累計率	有形固定資産(土地、美術品・所蔵品を除く)について、減価償却がどの程度終わっているかを示す指標。建物や設備、構築物などの老朽化度を示します。
教員一人当たり学生数	常勤教員一人当たりの学生数であり、この数値が低いほど、学生に対する教育業務が手厚く行われていると解釈できます。
大学院生割合	大学院生対学部生の比率を示す指標。この数値が高いほど、研究に重点をおいて活動が行われていると解釈できます。

独立行政法人 大学改革推進・学位授与機構HPより抜粋

相談件数の推移



■ 臨床心理士 ■ 保健室看護職 ■ CSWer

2022年度 Instagram (@maebashikokadaigaku) 掲載記事 (抜粋)

学生シェアハウス

貴重な大学生活4年を、どう過ごすか。
 ここには学生をサポートする様々な仕掛けが隠れています。内閣生活を楽しくする時間や仲間、地域住民や社会との交流、様々な企業と出会う経験など、卒業のための必要な学びのLIFORTでは「LIFORT」を通して、大学生活をサポートします。

LIFORT
 LIFORTは「LIFE」(ライフ) + 「SUPPORT」(サポート) をあわせた造語です。地域に若もの定住による新しい力が芽生え、地域に住む多世代と新しい未来を描く、地域創生を実現することを支援するプログラムです。

<https://lifort.net/>

maebashikokadaigaku • フォローする

maebashikokadaigaku 【地域の未来を創る広瀬団地の取り組み #LIFORTプロジェクト】
 LIFORT = 広瀬団地 + LIFE (ライフ) + SUPPORT (サポート) をあわせた造語です。

地域に若もの定住による新しい力が芽生え、地域に住む多世代と新しい未来を描く、地域創生を実現することを支援するプログラムです。

大学近くの老朽化した広瀬団地をインテリアにこだわった家具付きの3人が共同生活するシェアルームにリノベーション！

様々なイベントやワークショップを通じて、他ではできない体験を通じて、地域の未来を育みます！

このプロジェクトは、#学生信用金庫職員と#前橋工科大学の大学生が中心となり、#群馬県住宅供給公社 #NPO 法人リデザインマネジメント研究所 #インテリアショップスタイルによる協働で行われています！

大学生を「金融」「住居」「生活」「就職」面から支援するライフサポートプログラム (LSP) を構築し、LSPを受けた大学生が将来的には、高齢化や少子化が進む団地再生を行い、大学卒業後に、群馬県内で就職もしくは起業し定住者となる仕組みを構築します！

いいね！ 39件
 5月 25, 2022

コメントを追加...

本学も参加します！ 参加無料

第13回 夢ナビライブ
Lumenavi LIVE 2022

国公立大学 合同進学
 オンラインイベント

[in Summer]
7/9 ± 10日

maebashikokadaigaku • フォローする

maebashikokadaigaku 【夢ナビライブ2022 in Summer】
 前橋工科大学は、夢ナビライブ2022 in Summer(7/9,10)に参加します！

今回は、建築・都市・環境工学群の堤洋樹准教授が講義等を行います。

オンラインセミナーやオンデマンド動画配信、講義ライブ質問対応・研究室訪問がありますので、高校生の皆さんは、是非参加してみてください！

申し込みは、大学HPからできます。
 10月開催にも参加しますので、楽しみに！

#前橋工科大学
 #前工大
 #夢ナビライブ2022
 #Summer
 #建築・都市・環境工学群
 #堤洋樹准教授
 #国公立大学
 #合同進学オンラインイベント
 40週間前

いいね！ 16件
 8月 8, 2022

コメントを追加...

maebashikokadaigaku • フォローする

maebashikokadaigaku 【オープンキャンパス2022を実施しました③】
 8/10、11にオープンキャンパス2022を実施しました。3年ぶりの開催にもかかわらず、多くの方にご参加いただきました。写真は、オープンキャンパスの建築・都市・環境工学群の模擬講義や演習体験などの様子になります。次回は、情報・生命工学群のオープンキャンパスの様子を投稿します。

今後は、WEBオープンキャンパスの公開も行っていきますので、ご覧いただけると幸いです。
 最後の動画は、コンクリートが破れる様子になり、突然大きな音が出ますのでご注意ください。

#前橋工科大学
 #前工大
 #MIT
 #オープンキャンパス
 #3年ぶりの開催
 #工学部
 #建築・都市・環境工学群
 29週間前

いいね！ 45件
 8月 19, 2022

コメントを追加...

2023年度一般選抜 前期日程

募集区分	出願期間
工学部 ◆建築・都市・環境工学群 ◆情報・生命工学群	1月23日(月) >> 2月3日(金)
	試験日
	2月25日(土)

maebashikokadaigaku • フォローする

maebashikokadaigaku 【一般選抜 前期日程】

一般選抜 前期日程の出願がそろそろスタートします！
 出願期間は、1月23日(月)から2月3日(金)までです。
 また、一般選抜 前期日程は、学群別入試になります。
 詳細については、大学HPより募集要項をご確認ください！

#前橋工科大学
 #前工大
 #MIT
 #一般選抜
 #前期日程
 #学群別入試
 #建築都市環境工学群
 #情報生命工学群
 8週間前

いいね！ 22件
 1月 16

コメントを追加...

高校教員説明会資料2022 出欠確認

参加形態	高校名	出席確認	参加形態	高校名	出席確認
対面	前橋育英高等学校	○	オンライン	高崎商科大学附属高等学校	○
対面	渋川工業高等学校	○	オンライン	樹徳高等学校	○
対面	前橋女子高等学校	○	オンライン	利根商業高等学校	欠
対面	渋川女子高等学校	○	オンライン	四ツ葉学園中等教育学校	○
対面	小山西高等学校	○	オンライン	飯山高等学校	○
対面	富岡高等学校	○	オンライン	東京農業大学第三高等学校	○
対面	花咲徳栄高等学校	欠	オンライン	須坂高等学校	○
対面	星野高等学校	○	オンライン	会津若松ザベリオ学園高等学校	○
対面	前橋東高等学校	○	オンライン	長野西高等学校	欠
対面	前橋清陵高等学校	○	オンライン	東洋高等学校	○
対面	渋川高等学校	○	オンライン	伊勢崎高等学校	○
対面	前橋西高等学校	○	オンライン	上田東高等学校	○
対面	日立北高等学校	○	オンライン	静岡市立高等学校	欠
対面	熊谷女子高等学校	○	オンライン	多摩大学附属聖ヶ丘高等学校	○
対面	高崎東高等学校	○	オンライン	岩村田高等学校	○
対面	桐生清桜高等学校	○	オンライン	高崎北高等学校	○
対面	高崎健康福祉大学高崎高等学校	○	オンライン	篠ノ井高等学校	○
対面	館林高等学校	○	オンライン	足利高等学校	○
対面	鹿沼東高等学校	○	オンライン	上三川高等学校	○
対面	佐野東高等学校	○	オンライン	小山高等学校	○
対面	関東学園大学附属高等学校	○	オンライン	明和県央高等学校	○
対面	野沢北高等学校	○	オンライン	秩父高等学校	○
対面	榛原高等学校	○	オンライン	さくら清修高等学校	○
対面	高崎経済大学附属高等学校	○	オンライン	静岡北高等学校	○
対面	前橋南高等学校	○	オンライン	沼田女子高等学校	○
対面	伊勢崎清明高等学校	○	オンライン	宇都宮南高等学校	○
対面	常磐高等学校	○			
対面	市立前橋高等学校	○			

令和4年度広報活動実施状況について

1.公式 Instagram

月	掲載数	月	掲載数
4月	0件	10月	14件
5月	6件	11月	8件
6月	14件	12月	9件
7月	6件	1月	11件
8月	7件	2月	12件
9月	13件	3月	8件

2.雑誌、SNS等記事・広告等

- ・進路のミカタ for teachers 記事（マイナビ進学 5月）
- ・SELF BRAND 記事（フロムページ 6月）
- ・保護者のための大学進学ガイド 記事（ライオン企画 6月）
- ・OPEN CAMPUS GUIDE 2022 広告（上毛新聞 6月）
- ・市制施行130周年特集広告（上毛新聞 11月5日 大学広告及び学生インタビュー）
- ・SNS 広告（LINE,Instagram 4,5,6月）
- ・大学パンフレット前橋駅設置（10月27日～）
- ・朝日新聞 「水と緑と詩のまち 前橋市」広告特集（12月28日）
- ・大学入学共通テスト回答掲載に併せた広告 1面（産経新聞東海北陸版 1月15日）
- ・入試直前激励号 広告（フロムページ 1月16日）

3.模擬講義、大学訪問、大学説明会

別紙参照

4.大学行事

- ・夢ナビライブ（夏：実施済（堤准教授） 秋：実施済（荒井准教授））
- ・高校教員説明会（実施済）
- ・オープンキャンパス（対面：実施済 Web：実施中）
- ・オンライン個別相談会（実施済 29件実施済）

○出張講義

	学校名	実施日	担当教員
1	学校法人静岡理工科大学 星陵中学校・高等学校	6/15 (オンライン)	北野教授
2	栃木県立佐野東高等学校	6/17 (対面)	北野教授
3	高崎市立高崎経済大学附属高等学校	7/17 (対面)	宮川准教授
4	鹿島学園高等学校	9/5 (オンライン)	本間(桂)教授
5	群馬県立前橋高等学校	9/17 (対面)	石黒准教授
6	東京都立小松川高等学校	10/5 (対面)	野村教授
7	伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校	10/19 (対面)	堤准教授
8	岩手県立盛岡第四高等学校	10/20 (オンライン)	堤准教授
9	群馬県立富岡高等学校	10/20 (対面)	高橋教授
10	東京都立墨田川高等学校	10/21 (対面)	若松教授
11	茨城県立日立北高等学校	10/26 (対面)	石黒准教授 + 出身学生(1人)
12	群馬県立沼田女子高等学校	10/27 (対面)	蒔田教授
13	西武学園文理中学・高等学校	10/31 (オンライン)	岡野教授
14	高崎健康福祉大学高崎高等学校	10/31 (対面)	藤田助教
15	群馬県立沼田高等学校	11/1 (対面)	梅津准教授
16	栃木県立小山西高等学校	11/8 (対面)	朱教授
17	上野学園中学・高等学校	11/11, 25 (対面)	首藤教授
18	高崎健康福祉大学高崎高等学校	11/21 (対面)	小田垣准教授
19	前橋育英高等学校	11/17 (対面)	赤間助教
20	茨城県立勝田高等学校	12/8 (対面)	駒田教授
21	群馬県立渋川女子高等学校	12/13 (対面) 中止	石川(恒)教授
22	高崎市立高崎経済大学附属高等学校	12/15 (対面)	森准教授
23	群馬県立前橋清陵高等学校	3/6 (対面)	本間(知)教授
24	群馬県立前橋清陵高等学校	3/14 (対面)	森准教授
25	群馬県立伊勢崎清明高等学校	3/23 (対面)	中村教授

○大学訪問

	学校名	実施日	内容	人数
1	岩手県立久慈高等学校	6/1	学校、入試説明(特に推薦)	教員1名
2	長野県長野東高等学校	6/9	学校説明、施設見学、模擬講義(駒田教授)	40名
3	県立西邑楽高等学校	6/22	学校説明、施設見学	39名
4	栃木県立宇都宮南高等学校	7/7	学校説明、施設見学、模擬講義(江本教授)	38名
5	前橋育英高等学校	8/8	学校説明、施設見学、模擬講義(福地教授)	15名
6	前橋市立前橋高等学校	8/23~8/25	実験指導	4名
7	富山県立大門高等学校	8/24	学校説明、施設見学、模擬講義(朱教授)	48名
8	富山県立富山北部高等学校	8/24	学校説明、施設見学、模擬講義(松本教授)	26名
9	茨城県立藤代高等学校	9/29	学校説明、施設見学	28名
10	長野県立上田東高等学校	9/30	学校説明、施設見学、学食	40名程度
11	前橋育英高等学校	10/11	学校説明、施設見学、 模擬講義(土倉教授、星准教授、安藤准教授)	90名
12	新潟県立高田北城高等学校	10/12	学校説明、施設見学	30~90名
13	県立藤岡中央高等学校	10/13	学校説明、施設見学	30~40名
14	県立藤岡中央高等学校	10/14	学校説明、施設見学	35名(確定)
15	東京学館新潟高等学校	10/17	学校説明、施設見学、学食	42名
16	富山県立滑川高等学校	10/20	学校説明、施設見学	34名
17	栃木県立佐野東高等学校	10/26	学校説明、施設見学、模擬講義(平川准教授)	43名
18	富山県立八尾高等学校	11/16	学校説明、施設見学、模擬講義	最大80名
19	群馬県立前橋南高等学校	11/17	学校説明、研究室見学	58名
20	青森県立八戸北高等学校	3/3	大学概要説明、キャンパス見学	教員2名

○大学説明会

	日 時	内 容	高校・会場	備考
1	4月12日	説明会(会場)	グリーンドーム前橋	明和県央高校3年
2	4月18日	説明会(会場)	ビエント高崎	前橋育英高校3年500人、一立太田高校商業科3年155人、常盤高校2、3年徳新コース50人、進学コース60人
3	4月22日	説明会(会場)	Gメッセ群馬展示Aホール	高崎商科大学附属高校3年
4	4月27日	説明会(会場)	桐生市民文化会館	桐生清校3年、桐生工業3年
5	5月6日	説明会(会場)	ツインメッセ静岡	静岡城北高校、富士見高校、駿河総合高校
6	5月20日	説明会(高校)	桐生第一高校	桐生第一高校3年約510人
7	5月22日	説明会(会場)	ツインメッセ静岡	資料参加40部
8	5月23日	説明会(高校)	佐野高校	佐野高校2、3年約320人
9	5月25日	説明会(会場)	ヴィラ・デ・マリアージュ宇都宮	宇都宮北高校3年 320人
10	5月26日	説明会(高校)	樹徳高校	樹徳高校3年 380人
11	5月29日	説明会(会場)	ビエント高崎	
12	5月30日	説明会(高校)	小山西高校	小山西高校3年
13	6月9日	説明会(会場)	桐生市民文化会館	桐生高校3年 400人
14	6月14日	説明会(会場)	足利市民プラザ	足利高校3年
15	6月17日	説明会(オンライン)	深谷第一高校	
16	6月19日	説明会(会場)	サンシャインシティ	資料参加40部
17	6月22日	説明会(高校)	本庄東高校	
18	6月30日	説明会(高校)	春日部東高校	春日部東高校3年生
19	7月1日	説明会(会場)	冠稲荷神社 宮の森迎賓館(ティアラグリーンパレス)	太田東高校2、3年 園林高校2、3年
20	7月4日	説明会(高校)	前橋東高校	前橋東高校3年 約240名
21	7月5日	説明会(会場)	太田市民会館	太田女子高校 3年 240名
22	7月5日	説明会(高校)	東京農業大学第二高校	
23	7月6日	説明会(会場)	渋川市民会館	渋川女子高校3年 約400名
24	7月7日	説明会(高校)	樹徳高校	資料参加
25	7月8日	説明会(高校)	明和県央高校	オープンキャンパス情報収集ガイダンス 2年生275名
26	7月9日	説明会(会場)	サンシャインシティ	資料参加50部
27	7月11日	説明会(会場)	前橋育英高校	2年生 230人
28	7月12日	説明会(会場)	ビエント高崎	
29	7月13日	説明会(会場)	ビエント高崎	高崎商科、松井田、玉村、榛名、利根商等
30	7月14日	説明会(会場)	ビエント高崎	前橋高校3年 240人
31	7月15日	説明会(高校)	小松川高校	20部
32	7月20日	説明会(高校)	前橋南高校	3年生
33	7月21日	説明会(高校)	前橋西高校	3年生
34	8月8日	説明会(オンライン)	地方国立大学説明会(東京都立昭和高校-進路指導部)	昭和高校3年、保護者、教職員
35	8月16日	説明会(オンライン)	夏の地方国立大学合同説明会(多摩高進)	
36	9月12日	説明会(会場)	会場進学相談会	前橋清陵、勢田農林、県央、育英、前工、前西、前商、市前、前東、前南、前女、前高
37	9月22日	説明会(高校)	川口市立高校	2年生
38	9月30日	説明会(高校)	東京農業大学第二高校	2年生 560人
39	10月12日	説明会(会場)	長岡大手高校	2年生240人
40	10月31日	説明会(高校)	Gメッセ群馬	健大高崎1、2年生
41	11月10日	説明会(高校)	前橋育英高校	1年生
42	11月25日	説明会(高校)	桐生第一高校	2年生 518人
43	12月6日	説明会(高校)	宇都宮中央高校	2年生(旧宇都宮中央女子高校)
44	12月8日	説明会(高校)	明和県央高校	2年生 231人
45	12月23日	説明会(オンライン)	四国四県+岡山県2年生対象進路ガイダンス	
46	12月23日	説明会(オンライン)	静岡県高校教員対象説明会	高校教員、保護者対象
47	1月19日	説明会(高校)	藤岡中央高校	1年生 5人
48	1月26日	説明会(会場)	栃木県立宇都宮産業展示館	2年生 3人 2年生 6人
49	1月27日	説明会(高校)	佐野東高校	1年生 31人
50	3月1日	説明会(オンライン)	新発田南高等学校	2年生 1人
51	3月3日	説明会(高校)	前橋工業高校	2年生 10人
52	3月6日	説明会(会場)	ホテルマロウド筑波	1・2年生 3人
53	3月13日	説明会(高校)	東京都立科学技術高等学校	1・2年生 11人
54	3月16日	説明会(オンライン)	沼津市立沼津高等学校	
55	3月17日	説明会(会場)	Gメッセ	パンフレット設置
56	3月17日	説明会(会場)	太田駅なか文化館	太田、太田女子、太田東、市立太田ほか
57	3月20日	説明会(オンライン)	都立広尾高校	
58	3月22日	説明会(高校)	伊勢崎清明高校	

遠隔講義システム構成図 141講義室

